

紀 要

第 23 号

茅野市八ヶ岳総合博物館

茅野市八ヶ岳麓文芸館

第23号発刊によせて

2003年に日本博物館協会より「市民と共に創る新時代博物館」がまとめられ発表されました。それは21世紀の博物館運営の指針になるもので、それまでに次第に盛んになってきていた博物館活動に有機的にかかわる市民参加型の地域博物館のあり方を見据えたものでした。私はそれを見て今後の博物館は、それまでに拡大されてきた機能である市民参加の意義と効果を維持しつつ、博物館の原則に立ち返り地域社会に新たな価値をもたらす文化、情報、人材の集積所としての機能が求められるようになると思っています。そのためには、まず博物館に保存されている、あるいはこれから保存する博物館資料の利活用を通じて地域の価値を向上させることが望まれることになります。また、地域をより理解し地域の課題解決への貢献が求められると思います。更に他の博物館、教育機関、地域内企業、組織との幅広い強い連携による幅広く奥の深い博物館活動が求められます。そのような時代のニーズに応えるには、地域の課題を解決する研究やその担い手の育成、また地域の資料、文化に関する情報の収集と幅広い公開発信が必要です。また、地域密着性を向上させるためにアウトリーチ的な、活発な出前博物館の展開も求められると予想できます。そしてそれらを産学民公が連携して推進することが重要になってくると考えています。

そこで昨年度には収蔵庫の全面的整理しなおし、収蔵品のデジタル化をすすめて、利活用しやすいようにしました。また、博物館活動にかかわる市民を育成するための市民研究員養成講座を開講しました。さらに出前星空観察会等、アウトリーチ活動にも着手しました。一方今年度は未来を見つめ、時代のニーズに沿った博物館運営をするための中長期計画を検討する企画運営会議を発足させました。そのような流れの中で今年度、特別展示会を5回行いました。この地方の建物によくみられるこて絵に関する展示「八ヶ岳山麓のこて絵」、八ヶ岳山麓のコケを紹介する「北八ヶ岳のコケ」、九頭井太夫家から寄贈された古文書等貴重な資料を展示した「九頭井太夫家文書の世界」、市内小中学生の研究・絵画・工作の優秀作品を展示した「研究・創意工夫展」、当館にかかわる市民の活動を紹介する「博物館活動発表展」です。また、各種講演会や講座・教室を活発に行いました。詳細は本冊子の本文を参照してください。特質すべきは、喜ばしいことにこれらの事業に養成2年目ですが、市民研究員がかかわり始めてくれたことです。職員が手不足だから市民に手伝ってもらおうというのではなく、市民の生涯学習を支え、その学習成果として蓄積した力を社会に発揮してもらおう生涯活動に結び付ける。その生涯活動の受け皿を博物館が用意することにより、結果として市民に支えられ、市民によって高められる、市民のための博物館が実現します。その第一歩と考えています。そして21世紀にふさわしい博物館像実現を念頭に、まずそんな地域博物館を軌道に乗せたいと考えています。そんな気持ちをこの冊子から汲み取っていただければ幸いです。

今後とも皆様のご指導ご協力をよろしくお願いいたします。

平成27年3月

茅野市八ヶ岳総合博物館
館長 若宮崇令

目 次

第23号発刊によせて	茅野市八ヶ岳総合博物館 館長 若宮 崇令	
茅野市星空環境調査2014	若宮 崇令	1
九頭井太夫 矢島家寄託資料について	柳川 英司	4
市民研究員養成講座 平成26年度の取組		29
植物グループ活動報告	岩波 均 白鳥 保美 武居 三男 名取 陽	30
陸水グループ活動報告	花里 孝幸 君島 祥	33
茅野市内の水田における動物プランクトン調査	君島 祥	34
きのこグループ活動報告	小山 明人	37
野鳥グループ活動報告	両角 英晴	39
実験工作グループ活動報告	木村 正弘	46
2014年度の事業結果		47
26年度 茅野ミヤマシロチョウの会 活動記録	茅野ミヤマシロチョウの会 福田勝男・宮下りよ	53

茅野市星空環境調査2014

若宮 崇 令*

1 はじめに

茅野市は星空の美しい町として、昭和のはじめから半ばにかけて多くのアマチュアの天文家が活躍した地として有名である。しかし、近年開発が進み町明かり(光害)により美しい星空が失われつつある。昔はもっとよく星が見えたという声を聞くが、昔は実際何等星まで見えたか、それは何処で見えたかという記録は見当たらない。そこで現在の茅野市の星空はどのような状況であるかを年々調査し、記録として残し、未来へ伝えていかなければならないと考え、肉眼で何等星まで見えるか調査するため、昨年度より地の市内小学校6年生の協力を得て、夏は白鳥座で、冬はオリオン座を使って「星空環境調査」を実施している。今年度はその2回目として昨年度と同様の調査を実施し、データの蓄積ができたのでその結果を報告する。

2 実施に当って

(1) 調査用星図および調査用紙

明るいはうから1.4等までの星を1等星、2.4等までを2等星、3.4等までを3等星、4.4等までを4等星、5.0等までを5等星、6.0等までを6等星として、オリジナルな白鳥座とオリオン座の星図を作成した。5.0等と6.0等としたのは、6.4等までにすると星の数が多くなりすぎ、判りにくくなるためである。調査用紙には調査者名、住所、調査年月日、調査時間、調査時の雲の様子を記入してもらうようにし、裏に調査場所をプロットできるように地図を印刷した。

(2) 調査方法

茅野市には小学校が9校ある。学校に協力を依頼し、9校の6年生全員に調査用紙を配布し、6年の児童生徒に調査者になってもらった。月明かりの無い頃を選び、10日間ほど調査期間を定め、期間内の好天時に、児童生徒の住宅周辺で1日だけ調査してもらった。調査用紙は学校が回収し博物館へ届けてもらった。集結した調査用紙に基づいたデータを1枚のマップに落とし込み、何等星まで見えるか、地図上に見え度の等光度線を引き、「茅野市星空環境マップ2014夏」「茅野市星空環境マップ2015冬」を作成した。その結果は協力していただいた学校へ知らせた。

(3) 調査期間

2014年 9月15日～9月28日

2014年 2月9日～2月21日

(4) 集計に当って

1枚の調査用紙に4等星以下の暗い星に2個以上のチェックが入っていれば、見えたと判断した。1, 2等星にチェックが入り3, 4等星にはチェックが無く、5等星にチェックがあった場合は、2等星まで見えたと判断した。博物館職員が行った補間調査の結果も集計した地図に落とし込んだ。また、調査ポイントが密集し、調査者により見えた等級が入り混じっている所は1kmメッシュの平均を出し参考にした。本調査は1人の人間が同じ条件で行っているのではないので、ばらつきが出る。このラインからこちら側が暗い星が見えて、向こう側が見えないというようなシビアなものではないので、大体の傾向がわかるように等光度線は大雑把に引いた。

* 茅野市八ヶ岳総合博物館 学芸員

(5) 児童生徒に調査を依頼した理由

たとえば市内5kmおきの格子状に調査ポイントを定め、博物館職員が調査するほうが調査精度も上がるし、まとめがしやすい。調査精度は少々落ち、調査ポイントもばらばらでまとめがしにくいですが、あえて6年の児童生徒に調査者になってもらったのは次の理由による。①子どもたちに星空に関心を持ち、親しんでもらえるように。②未来を担う子どもたちに星空の環境をはじめとして、広く環境問題に関心を持ってもらえるように。③夜に行う調査なので、親子での実施をお願いし、親子の触れ合いの機会の一つにしてもらえるように。

3 調査結果

調査用の星図は昨年と同様のものを使用した。結果は昨年とほぼ同様であり、光害のない山麓地帯では6等星まで見える場所がかなり広範囲に広がっていた。今年度の茅野市星空環境マップとして掲載した。

4 調査協力者

2回目となる2014年度の調査には、夏には6校、冬には8校の協力を得ることができた。

＜夏の調査協力者 142名の6年生とその家族＞

玉川小学校 20名、北山小学校 6名、米沢小学校 2名、豊平小学校 12名、永明小学校 91名、金沢小学校 10名、その他1名。

＜冬の調査協力者 142名の6年生とその家族＞

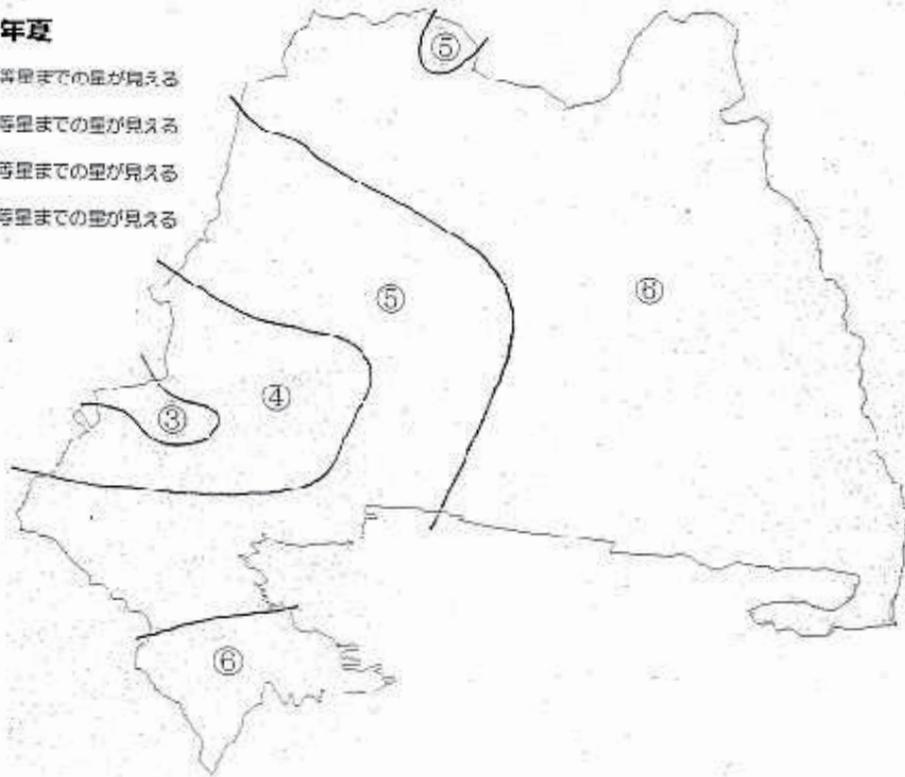
玉川小学校 20名、北山小学校 2名、湖東小学校 15名、米沢小学校 3名、豊平小学校 13名、永明小学校 74名、宮川小学校 8名、金沢小学校 7名

5 おわりに

昨年に引き続き多くの方の協力をいただき、貴重なデータを得ることができた。6等星まで見える美しい星空は茅野市民共通の財産であり、宝である。暗い星の見える範囲が現在より狭くならないようにしたいものである。

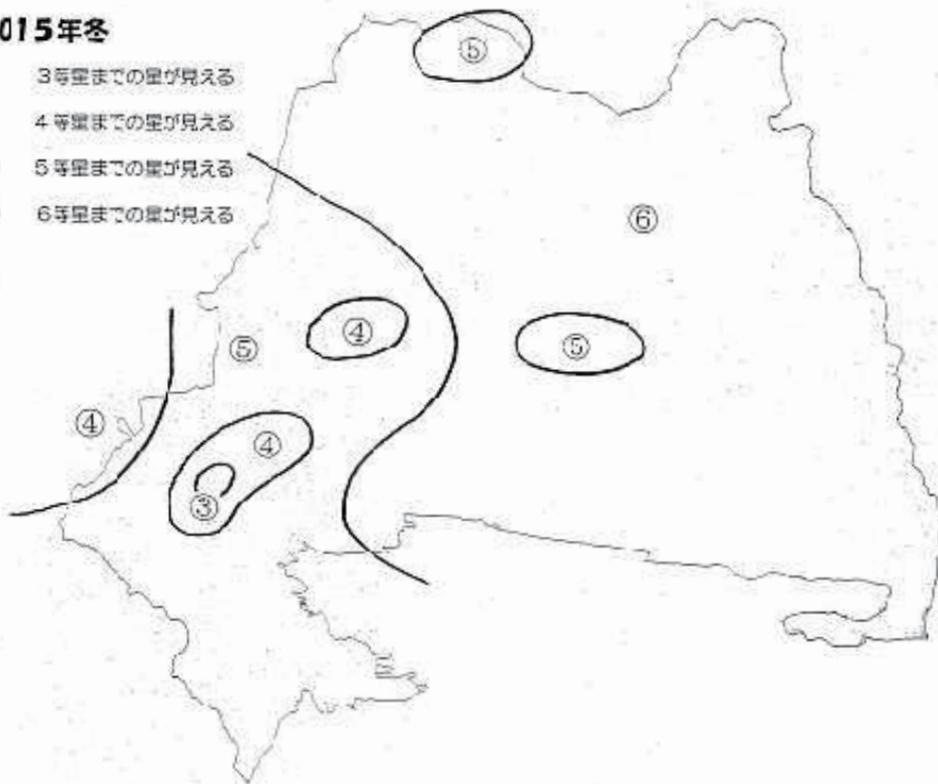
2014年夏

- ③ 3等星までの星が見える
- ④ 4等星までの星が見える
- ⑤ 5等星までの星が見える
- ⑥ 6等星までの星が見える



2015年冬

- ③ 3等星までの星が見える
- ④ 4等星までの星が見える
- ⑤ 5等星までの星が見える
- ⑥ 6等星までの星が見える



九頭井太夫 矢島家寄託資料について

柳 川 英 司**

1 寄託の経過

平成6年(1994)年に、茅野市ちの上原の矢島ちふり氏から、同家で所蔵している武田信玄朱印状等7件156点が八ヶ岳総合博物館に寄託され、同館に収蔵するとともに、常設展に展示も行っている。

また、平成23年(2011)に、茅野市ちの上原の矢島邦信氏、大戸ゆきえ氏から、同家に所蔵する古文書等を寄託したとの申し出があり、八ヶ岳総合博物館で受託し、平成26年度に、企画展「九頭井大夫家文書」の世界を開催した。

九頭井(葛井)太夫矢島家は、茅野市ちの上原に所在する葛井(九頭井)神社の神主を江戸時代まで勤めていた家であり、葛井神社や、神職に関わる古文書を多く所蔵している。特に、2通の武田信玄朱印状は、茅野市指定文化財に指定されており、重要である。

2 九頭井太夫矢島家について

前述の通り、九頭井太夫矢島家は、葛井神社の神官を勤めていた家である。矢島家の家系図によると、先祖は槻泉之神の子孫であるという。系図は、戦国時代の信盛から始まっている。

系図によると、以下の通りである。

信盛—信—信孝—信忠—邦信—信道—信国—貞道—信貞—信正—(四代不明)—義信—信孝—信任—信方—信吉—貞信—信胤—信明—信政—信清—信房—信智—茂登—茂—斎—邦信

1・2(目録番号、以下、同じ)の「新兵衛尉」について、系図上該当する名前の人物が比定できないが、死没年から考えて、信国か貞国ではないかと考えられる。

信正から義信にかけて4代不明であり、信正が寛永元年(1624)に死去し、義信は元禄十四年(1688)に死去している。矢島家で近世文書の最古のものは、正徳5年(1722)からで、信孝か信任の代だと思われるが、江戸初期のものが全く見られない。4代不明であることが関係していると考えられ、この間に葛井大夫家が断絶していた可能性がある。

諏訪神社の神官の宗門人別は、基本的には寺の人別帳に記載される。九頭井太夫家矢島家は頼岳寺の檀家であるので、宗門一札や請状は頼岳寺との関係で出されている。

3 九頭井太夫矢島家文書

分類は、中世・近世・近代にまず分類し、九頭井太夫家に特有の宗教具を別に項目を設けた。また、文芸は、時代が不明なものが多いため、これも項目を設けた。近世・近代は、文書の内容により、さらに分類したが、九頭井太夫矢島家文書の内容に則して分類しているために、八ヶ岳総合博物館内で統一された分類ではない。

本目録には目録番号と史料番号を付与したが、史料番号は、実際に収蔵史料に付けた番号である。

九頭井太夫家文書の時代・内容による内訳は、中世8点、近世198件221点、近代153件211点、宗教具56点、文芸288点、その他71点である。

(1) 中世文書

中世文書は、8点であるが、うち2点が原文書であり、他は写しである。永禄2年(1559)3月28日付武田信玄判物は、原本がなく写しである。もともと矢島家には3点の中世文書があったようである。写は、3点の中世文書の写で、2点ずつ写しが存在する。現存する2点の中世文書は、いずれも茅野市指定文化財に指定されている。

* 茅野市八ヶ岳総合博物館 学芸員

1・2は、九頭井太夫矢島家文書で最古の年号を持つ文書である。

内容は、葛井神社の祭礼が、100年以來断絶しており、この神事を復興するために、栗林郷の田地6反を、武田信玄から寄進するというものである。葛井神社の神事が100年以上断絶していたことがわかる史料である。本文序は、信玄が袖に花押を記している。

宛名が九頭井太夫ではなく、「祢宜 新兵衛尉」である。「万代家職覚帳」の系図などには(189)、没年から該当する人物として、「信道」であると考えられる(永禄4年5月1日没)。

5の釈文は、次の通りである。

これは、「葛井社の瑞籬・鳥居は、諏訪郡上原南北田役により7年に1度に造立

追而、縦雖帶諸役御免之先御判、於于神役者可相勤者也、九頭井社瑞籬・鳥居、以諏方郡上原南北之田役、七箇年一度造立之由、被載神前之本帳之上者、不足論、自今以後守旧規可相勉、若地下人等至令怠慢者、可有御過怠之旨、被仰出者也、仍如件、
永禄九年^{丙寅} 吉田左近助 奉之
閏八月廿五日(朱印) 九頭井之大夫との



5 永禄9年(1566)閏8月25日 武田家朱印状 (茅野市指定文化財)

ついで、神前の本帳に掲載されているので、不足がある場合は協議して、今後以前のように勤めよ。もし、地下人などが怠慢であった場合は、過失があったことを報告せよ。追って、たとえ先の諸役免許の御判があったとしても、神役は勤めなければならない」という内容だろうか。

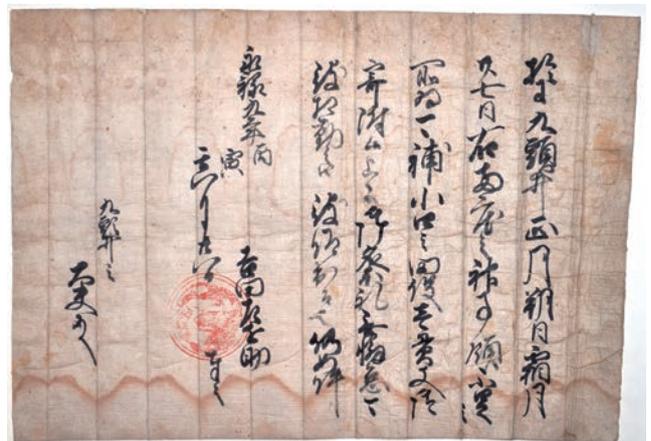
本史料の内容は、「諏方上下社祭祀再興之次第」(諏訪上社文書 以下、「信玄十一軸」)に同様の内容がある。「信玄十一軸」は、武田信玄が諏訪上下社の神官の要望を容れて作成された神事などの台帳であるが、該当する記事は、永禄9年9月3日に上社大祝と五官祝宛に出されたものとされたものであり、「信玄十一軸」に先行する状況で作成されたと考えられる。

同日に発給された文書が、諏訪市小和田の八剣神社に伝来しており(信濃史料 13-40~41)、内容も八剣神社の造宮に関してのもので、「信玄十一軸」にも、同じ巻に記されている。「信玄十一軸」の永禄9年9月3日付の巻に記載されている諸神社は、おそらく同日付の造宮に関する文書が発給されていたと考えられる。

同日付の文書に、金子文書がある(信濃史料 第13巻40頁)。これは、「御射山祭の時の大祝の宿所は、宛名の6ヶ郷が造営せよ」という文書である。6ヶ郷とは、中村・村岡・長田・原・木之間・湯川である。本史料の発給者は、吉田信生ではなく、土屋右門と穴山梅雪である。

なお、本史料と八剣神社文書は、奉者である吉田左近助(信生 生没年未詳)の諏訪においての初見文書である。吉田信生は、本文書の少し前に諏訪郡代に就任したと思われ、諏訪郡代として諏訪上下社等の復興に勤めたようで、次に記述する8の文書も、諏訪郡代として作成した

於于九頭井、正月朔日・霜月廿七日、右兩度之神事領不足之所、為可補小口之田役老貫文之御寄附候上者、祭礼無懈怠可被相勤之由、被仰出者也、仍如件、
永禄九年^{丙寅} 吉田左近助 奉之
壬八月廿八日(朱印) 九頭井之大夫殿



8 永禄9年(1566)閏8月28日 武田家朱印状 (茅野市指定文化財 8)

ものと思われる。

これは、「九頭井神社の正月一日と霜月 27 日の神事領が不足しているので、小口の田役一貫文を武田家より寄付する」という内容である。正月一日神事は、諏訪上社の特殊神事である葛井池神事である。霜月 27 日の神事は、「信玄十一軸」に記載されている神事であるが、この神事については、本文書と「信玄十一軸」以前には見られない神事である。文中の「小口」は、岡谷市幸町付近であろうか。

「信玄十一軸」では、永禄 8 年 12 月 5 日付に発給された巻にあるため、本文書に先行する形で、「十一軸」に記載され、実際に文書が出されたのは、翌年の閏 8 月 28 日になったようである。

なお、同日付の文書は他にもあり、船渡湛神事領に関するもの（諏方文書 信史 13-44～45）、御室御祭領に関するもの（「三輪文書」信濃史料 第 13 卷 45 頁）があり、いずれも吉田信生が奉者となっている。

以上 3 点の文書は、九頭井神社の神事領の復興や造営料に関わる史料である。

(2) 近世文書

明治 5 年(1872)に神職の世襲が廃止されたため、明治 5 年まで近世とした。近世文書は 198 件 218 点で、年代のわかるものは 151 点である。近世文書の最古のものは、宝永 8 年（1711）(207) の文書であるが、これは美濃国本高ヶ沢・稗畑山の訴訟に関するもので、何らかの参考にするために、後世に写されたと考えられる。

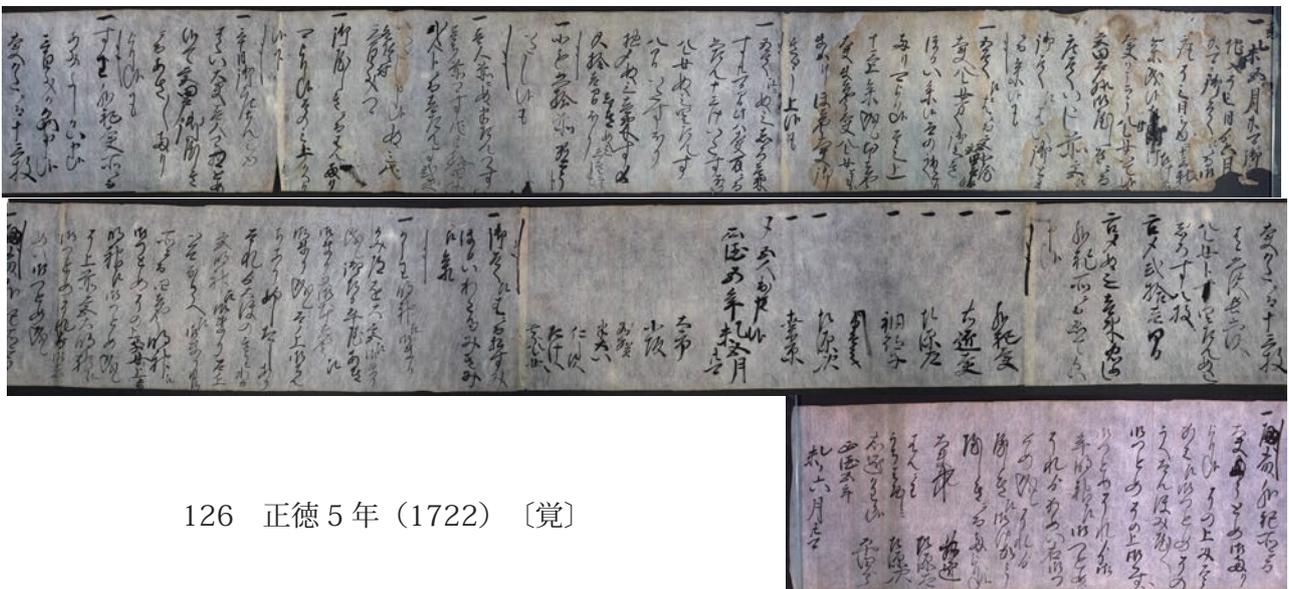
文書の内容を見ると、宗教関係が 94 点と最も多い。内容は、ほとんど神社や神職に関することである。以下、主要な文書群について述べる。

1) 宗教に関する史料

九頭井太夫矢島家に直接関係のある最古の文書は、正徳 5 年（1722）の覚（126）である。本史料は、九頭井太夫の上社神楽役に関連する史料である。内容は、大祝の職位式の状況について記されているものである。神事に関する文書には、上社の太々神楽（131・132・133・138）や、維新時に発給された文書がある（200）。

神社と分類したものには、九頭井大夫家が管轄する葛井神社、上原千鹿頭社・埴原田千鹿頭社・御社宮司社・塚原鎮守社に関するものも含まれる（197・198）。

神職と分類したものは、九頭井太夫の身分などに関するものである。最も多いのは、九頭井大夫家や、同じ神楽役の家の系図類（119～125・167～169）が多い。他に吉田家からの神道免許に関するものである（127・147～153・156・159）。風折烏帽子（409）も、関連する史料であろう。



126 正徳 5 年（1722）〔覚〕

神職の中に含めたが。「万代家職覚帳」(189)は、表紙に寛政4年(1793)の年号が書かれているが、嘉永8年(1855)までの記録があることから、実際にこの史料が作られたのは、嘉永8年頃であると考えられる。本記録は、寛政4年以降の九頭井太夫が関わった神事・神社に関する記録であり、最重要史料である。

また、宗教関係で多くの比率を占める文書に、神楽役間で起こった争いに関する訴訟がある(170～184)。そのほとんどは、外記太夫家との給分や管轄する神社に関する訴訟が多い。

2) 戸口に関する史料

戸口に関する史料は、九頭井太夫矢島家に関する史料が多いが、何故か籬(真柿)太夫増澤家のものが若干含まれる(37・38)。九頭井太夫矢島家の文書にある理由は不明であるが、親戚関係だった可能性が考えられる。籬太夫増澤家との史料は、商業の項目などにも見られる(82・87・97～99)。



189 寛政4年
(1793)
万代家職覚帳

宗門以外は、明治5年の改名に関するものがあり、通称から実名に変更する関係の史料が見られる。

3) 記録類

神事に関わる記録以外では、幕末維新に関わる史料が16点と多い。特に、「年代旧記諸雑録」(114)や「慶応四戊辰二月日官軍徳川せいばつ并諸国鎮撫御勅使附御警衛大名衆御人数并奥州會津之仕末分日々聞書雑録 庭敵大名會酒井上秋仙台右二候・水戸屯集浪士和田峠之一戦之扣」(113)は、当時、九頭井太夫だった矢島信智が実際に見聞したことや、噂話などを書き留めたもので、同時代史料として、興味深い史料である。

(3) 近代文書

近代文書は211点であるが、10点は、プライバシーに関わる史料なので、非公開とした。

1) 政治・行政

本項目としたものに、知行関係、戸口、土木・水利、戦争・兵事がある。

知行関係は、旧禄取調(227～233)に関する史料が主である。戦争・兵事は、日清・日露戦争への軍資金寄付に関わる感謝状や領収証である(271～273)。

土木・水利は、小江川は、葛井池に直結している用水で、満水の時には砂利で葛井池が埋没してしまうために、古川へ通すようにという願書(264)や、水害により土手が崩れたために、土手を改修するための史料(263・268・269)、古川堤防工事に関する史料(265・270)がある。

2) 経済・産業

経済産業に関する史料には、製糸業、運輸・通信、無尽に関する史料がある。

製糸業は1点だけであるが(276)、明治7年(1874)に諏訪郡生糸製造人惣代と生糸改会社が定めた雇用に関する取り決めである。明治7年という比較的早い段階で、労働条件についての取り決めがされていることが、興味深い史料である。

運輸・通信も1点だけであるが(302)、明治38年(1905)に、中央線ちの停車場(現茅野駅)通路開削費に1円、矢島茂登が寄付したことに対する領収書である。明治36年(1903)に中央東線が開通し、駅の周辺整備がその後行われたことを示す史料である。

3) 社会・労働

社会労働に関する史料は、救恤に関する史料が主である。

水害にや凶作への寄付に対する感謝状である。特に明治41年(1908)の感謝状(306)は、明治38年の岩手県の凶作に対するもので、広範囲にわたって、寄付金が集められていたことがわかる。

4) 教育・文化

矢島信智が、上原学校の設立に関係したようで、学校関係は上原学校に関連したものが多い。横内村・上原村生徒人員録（311～314）、上原学校の地所に関するもの（315・316）、上原学校の校舎平面図（317）がある。

5) 宗教

宗教は、九頭井神社に関する史料がほとんどである。

明治時代は神社制度変革によるものが多い。新政府からの布告の写や九頭井太夫や所管する神社に関する調書などが見られる。

矢島家は、明治6年（1873）に神社制度が変わったため、九頭井太夫が廃止され、神職ではなくなったと思われるが、明治33年（1900）に矢島信智が葛井社（332）・千鹿頭社（333）・八幡宮（334）の社掌の辞令を受け、その後、明治35年に祭式講習を受講しており（324～326）、この頃に九頭井神社に関係していたが、矢島信智は明治39年に没しているため（392）、この時に九頭井神社との関係は途切れたようである。

その後、矢島信智の孫である矢島茂が、大正9年（1920）に九頭井神社の社掌となったとみられる（337～342）。矢島茂が、いつまで九頭井神社の社掌を務めていたかは不明であるが、昭和11年（1936）に没しているため、この頃までには矢島家と九頭井神社の直接のつながりはなくなった可能性がある。

6) 家

矢島家の個人や系図に関することは家とした。ほとんど、矢島信智の子である矢島^{もと}茂登に関するものが多い。それは、矢島茂登が医師であったため、長野県医学校に関するもの（365～372）や、北安曇郡医（376・377）・諏訪郡医（379）・永明尋常小学校医の辞令（380）などがある。

（4）宗教具類

宗教に関する道具類が53点と多くあるため、別に項目を立てた。そのうち約半数の28点が御札に関するものである。御札で年代のわかるものがほとんどないが、おそらく近世のものが大半であると思われる。年号のわかるものは1点のみであり、嘉永元年4月（1848）の「諏方宮御祈禱御稜札」（410）である。この御札は、「矢嶋甲斐」とあるところから、九頭井太夫家で発行されたものである。「諏方宮」とあっても、それぞれの神職が御札を発行していたことがわかる。

御札の中には、鹿食免が4点ある（420）。また、版木も伝えられている（411）。鹿食免は、他に権祝矢島家に、版木は、大祝諏訪家・神長官守矢家に伝えられており、「諏方宮御祈禱御稜札」と同様に、鹿食免はそれぞれの神職から発行されていたようだ。鹿食免の版木は、裏面に「上社御祈禱御守護」とある。また、他に片面に「諏方本宮 一千度御稜大麻」、もう片面に「諏方上社五穀成就御守」の版木がもう一枚ある（412）。

「切札」としたものが8点あるが、何らかの儀式に使用したものだろうか。417の袋に入っているものは、風水に関するもの（426・427）、棟上式の供物を書き留めたもの（428）があるので、何かの棟上式に使用された切紙だと考えられる。可能性としては、天保8年（1837）に九頭井神社の宝前（神殿か）の建て替えの時のものか（189）。

太鼓が1点所蔵されているが（415）、胴部に諏訪上社の神紋が描かれているので、九頭井太夫が、上社の神楽役を務めていたときのものか。



456 大日如来座像（左）
457 地藏菩薩座像

仏具としたものの中に、仏像が3体ある。そのうち2体の大日如来座像(456)と地藏菩薩座像(457)は、九頭井神社にあったものと伝えられ、廃仏毀釈の時に除仏されたものだろう。しかし、九頭井神社の本地仏は薬師如来であるので、本尊に薬師如来像があったはずであるが、こちらは伝わっていない。

(5) 文芸関係

書画や和歌・俳句、刊行物等を文芸関係とした。文芸関係で多いのは、絵画41点・俳句25点・和歌24点である。

1) 絵画 文芸関係で最も多いのは絵画である。肉筆のものや印刷したものなどがある。肉筆の絵画では、作成者が不明なものが多い。その中で、諏訪地域の人物が作成したことが判明するものに、岩波其残(1815-1894)が描いた俳画(555)や小平雪人(1872-1958)が描いた達磨図(581)がある

2) 俳句 俳句では、年号がわかるものはほとんどないが、年号のわかるもので古いものは、安政5年(1858)のものである(480)。包紙上書に「句種井 信州 月廼屋江湖」とあり、「句種井」は「九頭井」の当て字と考えられるところから、「月廼屋江湖」は矢島家の人物だと考えられる。年代から考えて、信房(明治15年(1882)74才没)か信智(明治39年(1906)78才没)であると考えられる。

「発句雑誌」(479)・「歌俳句雑誌集」(482)には「矢島閑柳」「矢島閑柳」とあり、この「矢島閑柳」は、年代から見て、矢島信智の可能性が高い。このことから、504・506・508の俳句と、「発句雑誌」(478)、490の和歌は、矢島信智が詠んだものと思われる。

500の俳句は、包紙上書に「捧吟 壱章 松濤會員 竹田璽 病床中」とあり、また、短冊に「凍湖」とあるので、高島城の撮影で著名な竹田凍湖のことであると考えられる。

3) 和歌

和歌は、俳句で述べた矢島閑柳の他に(490)、矢島信智が本名で書いた403・404がある。他に、「発句雑誌」(479)・「歌俳句雑誌集」(482)・「発句雑誌」(478)といった、同人が詠んだ俳句集などがある。

作成者不明の短冊が多いが、小平雪人が詠んだ485がある。

4) その他

上記の物の他に、漢詩9点・書9点あるが、作成者が判明するものはほとんどない。

他には地図が12点と多いが、583・584・588～590・592・593・595は江戸時代の地図と考えられる。583は宝暦10年(1760)に改訂がされたものである。江戸・大坂(大阪)の地図なので、職務上や旅で購入したものだろうか。

(6) その他

その他としたものは、衣類や什器類である。

羽織(597)は内側に「庄九郎」と墨書がある。「庄九郎」とは、右近太夫矢崎清時か清政のことである。清時は安永頃(1772-1780)の人物であり、清政は天保頃(1830-1844)の人物である(122-124・361)。361では、清時の仮名が「権之進」とあるので、ここでの「庄九郎」は清政の可能性が高い。

右近太夫矢崎家のものが矢島家に伝えられているのは、幕末から明治にかけての矢崎家の当主が、矢島信智の弟である光忠であったからだと考えられる。

他に胸当てが1点あり(598)、胸の部分に「六文銭」の刺繍がある。矢島家の家紋が「六文銭」であることから、矢島家で伝承していたものようである。

陣笠は2点ある。1点は矢島家の家紋が描かれているが(599)、もう1点の家紋は不明である(600)。

馬具である泥障(601)が1点あるが、伝承については不明である。

武具は、刀1振(605)、鎧1本(602・603)、火縄銃がある(604)。刀・鎧とも無銘であるので、製作者・

年代とも不明である。火縄銃は「江州国友住才次能當」とあり、鉄砲鍛冶で有名な現在の滋賀県長浜市国友町に居住していた人物の製作によるものである。この人物については、不明である。

茶壺が1点所蔵されている(606)。この茶壺は、瀬戸窯で焼かれたもので、16世紀後半のものと考えられる。

その他のものとして、石器がある(607~611)。石器の内容は、石匙3点・石鏃37点・石鏃の未製品と思われるもの7点・石錐3点・太形蛤刃石斧2である。石鏃には縄文時代早期のと思われるものと、縄文時代晩期の有茎石鏃が見られる。石匙は2点が頁岩が素材であり、1点は黒曜石が素材である。太形蛤刃石斧2点は、弥生時代である。

これらの石器は、矢島信孝が、矢島家の前の畑で採取したものらしい。縄文時代から弥生時代の遺跡が、矢島家付近にあることを物語る遺物である。

まとめ

矢島家文書は、中世・近世を通じて、九頭井太夫・諏訪上社の神楽役という「職」に関する史料が中心であり、諏訪上社の神官の動向についてわかる貴重な史料である。諏訪上社に関連する古文書群では、大祝諏方家文書・神長官守矢家文書・権祝矢島家文書・擬祝伊藤家文書が伝えられているが、その他の神職が所持している古文書群は、明らかではなかった。今回、矢島家から寄託されたことにより、より、中世・近世の諏訪上社や、九頭井太夫について明らかになるのではないかと、期待される。

《参考文献》

信濃史料刊行会 1958『信濃史料 第十二巻』

信濃史料刊行会 1959『信濃史料 第十三巻』

信濃史料刊行会 1971『新編信濃史料叢書 第三巻』 「諏方上下社祭祀再興次第」

矢島はつ子編 1981『矢島信孝自叙家集(私家版)』

八ヶ岳麓文芸館・茅野市八ヶ岳総合博物館 2008 「八ヶ岳麓文芸館特別展 小平雪人 没後50年と諏訪の俳人たち」

八ヶ岳麓文芸館・茅野市八ヶ岳総合博物館 2009 「八ヶ岳麓文芸館企画展 岩波其残展」

茅野市八ヶ岳総合博物館・茅野市神長官守矢史料館 2014 「茅野市八ヶ岳総合博物館・茅野市神長官守矢史料館企画展 九頭井太夫家文書の世界・守矢文書にみる九頭井神社」

九頭井太夫 矢島家文書目録

1 中世

目録番号	史料番号	文書名	年月日	西暦	月	日	差出人・作成者	受取人	形態	数量	内容	備考
1	359	(武田信玄判物写)	永禄二年己未三月廿八日	1559	3	28	(武田信玄)	称宣新兵衛尉	竖紙	1	寄進状	428と同一文書。
2	428	(武田信玄判物写)	永禄二年己未三月廿八日	1559	3	28	(武田信玄)	新兵衛尉	竖紙	1	寄進状	359と同一文書。
3	436	(武田信玄朱印状写)	永禄九年丙寅閏八月廿五日	1565	8	25	(武田信玄)	九頭井之太夫との	竖紙	1		361・市指定文化財と同一文書。
4	361	(武田信玄朱印状写)	永禄九年丙寅閏八月廿五日	1565	8	25	(武田信玄)	九頭井之太夫との	竖紙	1		436・市指定文化財と同一文書。
5	H6-02	(武田信玄朱印状写)	永禄九年丙寅閏八月廿五日	1565	8	25	(武田信玄)	九頭井之太夫との	竖紙	1		茅野市指定文化財
6	357	(武田信玄朱印状写)	永禄九年丙寅閏八月廿八日	1565	8	28	(武田信玄)	九頭井之太夫殿	竖紙	1	寄進状	360と市指定文化財と同一文書。
7	360	(武田信玄朱印状写)	永禄九年丙寅閏八月廿八日	1565	8	28	(武田信玄)	九頭井之太夫殿	竖紙	1	寄進状	357と市指定文化財と同一文書。
8	H6-01	(武田信玄朱印状写)	永禄九年丙寅閏八月廿八日	1565	8	28	(武田信玄)	九頭井之太夫殿	竖紙	1	寄進状	茅野市指定文化財

2 近世

目録番号	史料番号	文書名	年月日	西暦	月	日	差出人・作成者	受取人	形態	数量	内容	備考	分類
9	111	明治五年申二月筑摩縣御役附	明治五年申二月	1872	2				断簡	2	筑摩縣の役人の等級と人名の書上		1 行政
10	333	御罷申一札之事	庚午(明治三年办)三月八日	1870	3	8	本人 留吉 庄右衛門 隣家	御講連中様	竖紙	1	偽りヶ間敷儀につき。	端裏書「庚午九月廿一日 講連此書文隣家一統二面貫い」。	2 治安
11	82	(寄進状)	享保七壬寅歳二月十七日	1722	2	17	赤井信濃守	願向勸請諏方末社山神九頭井太夫殿	折紙	1	常陸国坂戸村新田高五石を寄進に付。424と同一。		
12	424	(寄進状)	享保七壬寅歳二月十七日	1722	2	17	赤井信濃守	願向勸請諏方末社山神九頭井太夫殿	折紙	1	常陸国坂戸村新田高五石を寄進に付。	82と同一文書。	
13	H6-03	(寄進状)	享保七壬寅歳二月十七日	1722	2	17	赤井信濃守	願向勸請諏方末社山神九頭井太夫殿	折紙	1	常陸国坂戸村新田高五石を寄進に付。	82・424と同一文書。	
14	304	一札	文政六年癸未年十一月	1823	11		上金子村 名主 長右衛門		竖紙	1	九頭井太夫の持高証文。	包紙あり。	
15	292	一札	嘉永元戌申年十一月	1848	11		上金子村 名主 岩右衛門		竖紙	1	九頭井太夫の持高証文。		
16	118	一札	嘉永三庚戌年十一月	1850	11		上金子村 名主 岩右衛門		竖紙	1	九頭井太夫の持高証文。		
17	9	金澤町口重跡跡口末方相	安政四丁巳年十一月廿三日	1857	11	23			竖帳	1			
18	301	一札	安政四年丁巳年十一月	1857	11		上金子村 名主 政右衛門		竖紙	1	九頭井太夫の持高証文。		
19	321	一札	安政五年戊午年十月	1858	10		上金子村 名主 政右衛門		竖紙	1	九頭井太夫の持高証文。	包紙あり。包紙上書「上 九頭井太夫」	
20	299	一札	安政六己未年十二月	1859	12		上金子村 名主 政右衛門		竖紙	1	九頭井太夫の持高証文。		
21	53	書留覚	文久元年十一月	1861	11		上金子村 名主 政右衛門		竖紙	1	包紙か。包紙上書に「田地證文并二添書在中」		1 支配
22	37		慶應二丙寅四月廿五日	1866	4	25			竖紙	1	包紙か。包紙上書に「田地證文并二添書在中」		3 領知
23	41	別紙添書	慶應二丙寅年十二月	1866	12		受人 茅野口作 本人 興兵衛	矢嶋蔵人殿	縦紙	1	年賦勘定書か		
24	88	3(耕地絵図)	慶應三丁卯年三月廿三日 寅十月十八日(近世)	1867	3	23			縦紙	1			
25	62	今般御田地具外屋敷所持之山畑共二書上写		1868	10	18			折紙	1		63・64と同じ包紙にあり。包紙上書「高調之覚 與右衛門分 古川通り一反芒 畝式歩 寅十月十八日」	
26	109	年婦米調	[年未詳] 十月十八日	1868	10	18			折紙	1			
27	148	知行割渡帖	明治元戌申年十二月	1868	12		小別當外記太夫 茅野水眼		横帳	1			
28	160	知行割渡帖	明治元戌申年十二月	1868	12		茅野光豊		小横帳	1			
29	64	(田地書上)		1868					小切紙	1		62・63と同じ包紙にあり。	
30	102	覚		1868					折紙	1	金銭書上		
31	103	(金銭書上)		1868					折紙	1			
32	110	3 知行米割方帳	明治元年戊辰年ヨリ并二明治十一年寅年十一月改等之事	1868			九頭井太夫 矢嶋信智		横帳	1		110は綴り	
33	110	4 [和贖石高書上]		1868					横帳	1		110は綴り	
34	2	神楽役之者家縁仕置書	明治四年未年	1871					横帳	1			
35	63	(田地書上)	明治五年壬申年九月十八日	1872	9	18			小切紙	1		62・64と同じ包紙にあり。	

目録番号	史料番号	文書名	年月日	西暦	月	日	差出人・作成者	受取人	形態	数量	内容	備考	分類
36	144	一札	文政七甲申三月十五日	1824	3	15	矢嶋専之丞	前田弥左衛門殿	堅紙	1	矢嶋専之丞と主水が頼岳寺旦那であることの保証書。	包紙「上 九頭井大夫」	
37	322	寺請一札	文政七甲申年三月十五日	1824	3	15	真言宗 佛法寺	前田弥左衛門殿	堅紙	1	増澤数馬・妻・父・同姓猪吉の寺請証文。		
38	323	一札	文政七甲申年三月十五日	1824	3	15	真言宗 佛法寺	前田弥左衛門殿	堅紙	1	増澤数馬・妻・父・同姓猪吉の寺請証文。	端裏書「古筆」「殿」の手習。	
39	348	寺請一札	文政七甲申年三月十五日	1824	3	15	曹洞宗 頼岳寺	前田弥左衛門殿	堅紙	1	矢嶋専之丞・同姓主水寺請証文。		
40	309	寺請一札	天保三壬辰年三月十五日	1832	3	15	曹洞宗 頼岳寺	山中三郎右衛門殿	堅紙	1	矢嶋専之丞・妻・同姓主水の寺請証文。	端裏書「伯父様口書」	
41	308	一札	天保五甲午年六月廿五日	1834	6	25	矢嶋専之丞	何村名主 何右衛門殿	切紙	1	宗門送り下書		
42	75	寺請一札	嘉永三庚戌年三月十五日	1850	3	15	曹洞宗 頼岳寺	志賀傳兵衛殿	堅紙	1	矢嶋主水等の宗門奉行へ提出した人別証明の写	端裏書「□□□ 土橋又兵衛様口書」	
43	76	一札	嘉永三庚戌年三月十五日	1850	3	15	矢嶋主水	志賀傳兵衛殿	堅紙	1	矢嶋主水等の宗門奉行へ提出した人別証明の案	端裏書「土橋又兵衛様口書」	
44	300	差出申一札之事	文久元辛酉年八月	1861	8		榎屋 善徳	庄九郎殿	堅紙	1	とせ身代金井当人取替金請取書。		
45	33	人別請取一札	文久四甲子年正月	1864	1		内藤若狭守領分 伊奈郡小出村名主 五郎兵衛	諏訪郡上原村 名主 音五郎殿	堅紙	1	清右衛門跡式につき。雛形か。		
46	312	寺請手形之事	文久四甲子年三月十五日	1864	3	15	真言宗 佛法寺	石井隆右衛門	堅紙	1	増澤数馬・妻・祖母の寺請証文。		
47	330 1	一札	文久四甲子年三月十五日	1864	3	15	増澤数馬	石井隆右衛門	堅紙	1	増澤数馬・妻・母・祖母の寺請証文。	包紙あり。包紙上書「明治五主申年 戸籍雛形 矢嶋庫之控」	
48	331	寺請一札	元治元甲子三月十五日	1864	3	15	曹洞宗 頼岳寺	慶應二丙寅年 石井隆左衛門殿 元治二乙丑年 黒澤屋八郎殿	堅紙	1	矢嶋主水・妻・同姓蔵人・妻の寺請証文。		
49	306	一札	元治元甲子年六月	1864	6		受人 藤右衛門 同断 又右衛門 門 高角 繁弥 同断 幸右衛門 同断 孫兵衛 同断 平之丞 同断 □□□ 寺嶋善之丞 隣家 榮六 同断 藤兵衛	矢嶋占蔵殿	堅紙	1	保太郎身元引受につき。	包紙上書「引受 一札」	
50	54	宗門送り一札	元治二乙丑年二月二日	1865	2	2	内藤若狭守領分 小出村 名主 五郎兵衛	諏訪因幡守様領分 上原村 平四郎殿	堅紙	1	小山村梅右衛門 保太郎・神太、清右衛門 妻子につき。	包紙在り。55も同じ包紙にあり。	
51	55	身元引受一札	元治二乙丑年	1865	3	16	信弥伊奈郡小出村保太郎一類惣代又五衛門 名主五郎兵衛	信州諏訪郡上原村御役人中様 守屋要人	堅紙	1	小山村梅右衛門 保太郎・神太、清右衛門 妻子につき。	包紙在り。54も同じ包紙にあり。	
52	32	人受一札	慶應二丙寅歳三月十六日	1866	3	16	本人 鎌田高之進 蔵人	高橋左中殿	堅紙	1	松本龍田村鎌田高之進を引き受けたもの。	包紙	
53	77	一札	慶応三丁卯年三月十五日	1867	3	15	矢嶋主水	高橋左中殿	堅紙	1	矢嶋主水等の宗門奉行へ提出した人別申請の案		
54	78	一札	慶応三丁卯年三月十五日	1867	3	15	矢嶋主水	高橋左中殿	堅紙	1	矢嶋主水等の宗門奉行へ提出した人別申請の案		
55	290	一札	明治元戊申年三月十五日	1868	3	15	矢嶋文吾	黒澤屋八郎殿	堅紙	1	宗門一札	端裏書「明治五主申年七月二日被仰出付三日書上寫シ」	
56	74	寺請一札	慶応四戊辰年四月十五日	1868	4	15	曹洞宗 頼岳寺	何村名主 何右衛門 同断 兵衛	堅紙	1	矢嶋主水等の宗門奉行へ提出した人別証明の写		
57	307	一札	[近世]	1868			神祇官	何村名主 何右衛門 同断 兵衛	堅紙	1	宗門送り下書	「別札宗門送り下書」	
58	271 3	[諏方上下社調査御遠書写]	庚午 (明治三年) 六月廿四日	1870	6	24	神祇官	諏方上下社神官	切紙の 縹紙	1		271 は綴。	
59	123 2	人別送り一札	明治四辛未年八月日	1871	8		上宮 矢嶋主水	宮田渡村 名主 吉之丞殿 年寄 儀兵衛殿	小切紙	1	矢嶋主水 友吉を矢嶋常吉養子につぎ。		
60	123 3	引請一札之事	明治四年辛未八月日	1871	8		上原村 矢嶋主水 請人 上原 外右衛門	宮田渡村 御役人衆中	堅紙	1	矢嶋主水 友吉を矢嶋常吉養子につぎ。		
61	123 1	(包紙)	明治四辛未年	1871	9	10			堅紙	1	「明治四辛未年九月十日二遺入、常右衛門持参教帳 友吉宮田渡村名主 吉之丞丞遺候下書共二在中 身許引請一札 入別送り一札」「金白走 (御初穂)」	初穂の包紙を書状包紙に転用か。	
62	324	御奉公御請状之事	明治四辛未十月日	1871	10		諏訪郡上原村百姓榎屋 上原字 石衛門 同村請人 矢嶋吉蔵 諏方上社旧神官 矢嶋氏	甲府縣若尾治三郎様	堅紙	1	上原字右衛門、甲府縣若尾治三郎に奉公につき。	包紙あり。	
63	313	(包紙か)							堅紙	1	包紙上書「改名遠書 諏方上社旧神官 矢嶋氏」「増澤真嘉喜 矢嶋岩太 矢嶋信 矢嶋庫」の名あり。		
64	289	一札	明治二己巳年二月廿八日	1869	2	28			堅紙	1	矢嶋右内家家族構成書上。		
65	317	一札	明治己巳 (二年) 年二月廿八日	1869	2	28			堅紙	1	矢嶋岩太家族書上。		

1 宗門一札

2 戸口

目録番号	史料番号	文書名	年月日	西暦	月	日	差出人・作成者	受取人	形態	数量	内容	備考	分類
66	328	一札	明治四辛未年三月一日	1871	3	1			縦紙	1	葛井太夫 矢嶋千久真・矢島庫家族調査。		戸口
67	332	[矢島庫家族調書]	(明治四辛未年八月廿二日)	1871	8	22	[矢島庫]		縦紙	1	奥書に「笠井晴江殿 雛形受取候」とあり。包紙上書に「當年從被仰出改ル 明治四辛未年八月廿二日二着出ス 寫」。		戸口
68	327	[家族調書]	明治五壬辰年四月	1872	4				縦紙	1	矢島庫家族調書。		2
69	255 1	[改名願書]	明治五壬申七月	1872	7		第九拾八區二百二拾五番屋敷居住 諏方上社旧神官 矢嶋岩太	戸長 御中	縦紙	1	255 は同じ紙に書かれている。		
70	255 2	[改名願書]	明治五壬申七月	1872	7		第九拾八區二百二十五番屋敷居住 矢嶋岩太	戸長御中	縦紙	1	255 は同じ紙に書かれている。		
71	329	[改名願書]	明治五壬辰年七月	1872	7		第九拾八區二百二拾五番屋敷居住 諏方上社旧神官 矢嶋岩太		縦紙	1	矢嶋岩太通称から実名への変更願書。		
72	208	記	明治五壬申年八月	1872	8		第九拾八區二百二拾五番屋敷居住 諏方上社旧神官 矢嶋光忠		縦紙	1	姓名呼称の届書写。		
73	209	記	明治五壬申年八月	1872	8		第九拾八區百七番屋敷居住 諏方上社旧神官 矢島信智		縦紙	1	姓名呼称の届書写。		
74	326	記	明治五壬申年八月	1872	8		諏方上社旧神官 増澤清忠		縦紙	1	呼称変更届。		
75	325	[改名願書]	壬辰(明治五年)月	1872			第九十八區□□屋敷居住 諏方上社旧神官 矢嶋岩太	戸長御中	赤紙	1	通称から実名への願書。		
76	330 2	[九頭井太夫家族調書 下書]	(明治5年)	1872					小切紙	1	矢島庫家族書上。		
77	330 3	[矢嶋信家族調書 下書]	(明治5年)	1872					小切紙	1	矢嶋信家族書上。		
78	115	寛	辰七月(慶應4年)	1872	7		沢や 定右衛門	矢嶋様	小切紙	1	請求書兼領収書		
79	275	定	弘化五申年三月	1848	3		第一文殊藤原金重		小切紙	1	刀一腰の売渡状。		
80	120	一札	嘉永五壬子年十二月	1852	12		横内村本人 矢嶋石京 上金子村受人 吉弥	小池権藏殿	縦紙の 綴紙	1	矢嶋石京金五両借用証文		
81	65	寛	卯三月二日(近世か)	1868	3	2	丸屋 庄兵衛		切紙	1	領収書か。		
82	93	増沢(借金始末方覚)	明治三庚午年正月廿一日	1870	1	21			横帳	1			
83	66	寛							切紙	1	領収書か。		
84	104 1	記					横内村 徳弥	古河清左衛門	折紙	1	利息返済分書上		
85	104 2	記					横内村 又兵衛	上原村 新之助様	折紙	1	利息返済分書上		
86	104 3	[寛]							折紙	1	貸借金と利息を書き上げたもの。		
87	116	[包紙]							切紙	1	上書「御拝借証文 普門寺村 増沢 数馬死去二付 御宮江歎願書写し」		
88	132	賣渡し申田地手形之事	文政丙戌年戌年三月日	1826	3		上原村 本人 友右衛門 小町屋村 請人 勇蔵	富村ノ仙之助殿	縦紙	1	上金子村村役人の裏書きあり。		
89	47	売渡申田地手形之事	慶応二甲寅年四月	1866	4		加藤芳右衛門 加藤岡助	矢嶋藏人殿	縦紙	1	裏書きあり。37の中味。		
90	122	添贈文之事	慶応二丙寅年四月	1866	4		本人 加藤芳右衛門 請人 加藤岡助	矢嶋藏人殿	縦紙	1	加藤芳右衛門等買地につき。		
91	38	田地證文為取替手形之事	慶應二乙卯年十一月廿九日	1866	11	29	受人 矢嶋石内 本人 矢嶋藏人	茅野與兵衛殿	縦紙	1	難形か。		
92	72	田地證文為取替手形之事 下書	慶應二己卯十一月廿九日	1866	11	29			切紙の 綴紙	1			
93	80	田地證文為取替手形之事 下書	慶応二丙寅年十一月	1866	11		請人 茅野講作 本人 同與兵衛	矢嶋藏人殿	縦紙	1	茅野與兵衛田地賣渡につき		
94	67	寛	戌四月十八日(近世)	1868	4	18	古川清左衛門	矢嶋主水	切紙	1	領収書か。		
95	36	議渡申田地之事	(近世)	1868					縦紙	1	難形か。		
96	297	売渡し申地所手形之事 扣也	明治三庚午年四月	1870	4		本人 矢嶋庫之助 證人 房八	差引番 名主 又五郎殿	縦紙	1			
97	124	奉拝借証文之事	明治三庚午年五月	1870	5		本人 矢島庫之輔 受人 矢嶋信造	御社 御執事申	縦紙	1	祖母并数馬死去につき金三両借用証文。		
98	131	奉拝借証文之事	明治三庚午年五月	1870	5		矢嶋庫之輔 矢嶋信造	御社 御執事様	縦紙	1	祖母并数馬死去につき金三両借用証文。		
99	49	奉拝借証文之事							半切の 綴紙	1	祖母并数馬死去につき三両拝借。		
100	27	(小江川之掘出人名面帳)	(近世) 七月	1868	7				横帳	1			水利・土木

借 証 文
金融
商業
田 地 証 文
普 請
水 利 ・ 土 木

目録番号	史料番号	文書名	年月日	西暦	月日	差出人・作成者	受取人	形態	数量	内容	備考	分類	
												教育	その他
101	89	御觸書之寫	壬申(明治五年)四月廿七日	1872	4	筑摩縣廳 村役人	加藤芳人 土橋喜久や 金井頼三 濱善蔵 殿田勇助 岳寺納所 極楽寺同断 庫 矢崎信	平切の綴紙	1	縣学松本へ開校につき、入学者募集の通知		5	1 教育
102	175	(年代記)						巻物	1	戦国時代から江戸時代後期までの諏訪と高島藩の歴史を簡略に記したものの。		6	1 記録
103	523	(年代記)						折本	1	戦国時代から江戸時代後期までの諏訪と高島藩の歴史を簡略に記したものの。		5	1 記録
104	264	金森一件申渡書付	宝曆八年寅二月廿五日	1758	12	25		堅帳	1				2 訴訟
105	113	(加州縁御公儀江申上之写)		1868				横切紙の綴紙(前欠)	1	五兵衛調につき。			
106	30	水戸屯集浪士和田時之一戦之担	子十一月(元治元年)	1864	11				1		30は綴り		
107	258	(水戸浪士大田御陣屋江之文通二御座殿写)	子十一月(元治元年)	1864	11		安藤伊賀守内安藤彦之進	堅紙の綴紙	1	大田御陣屋 御代官高田意六様	奥書に「丑三月十五日写之也」とあり。		
108	96	慶応二丙寅年八月廿二日写	慶応二丙寅年八月廿二日写	1866	8	22		折紙	1		96は綴り・濱氏が写した		
109	96	八月八日付中蔵御達し書付写し	慶應二年丙寅八月(原本)	1866	8		松平右京亮	折紙	1	防長征伐につき。	96は綴り		
110	43	(御觸書写)	慶応四年正月	1868	1		神祇道本所 吉田殿 大取締役 所	紙2(も綴紙か)	2	鎮撫軍発向のための協力要請。			
111	45	1(御觸書)	戊辰正月	1868	1			堅紙	1	東山道語藩主御願助告。	45は綴り。	6	3 幕末維新
112	45	2(御觸書)	戊辰正月	1868	1		東山道鎮撫總督 同副総督	堅紙	1	偽官軍取締につき。	45は綴り。		
113	30	1 慶応四戊辰二月日 官軍徳川せいはいつ井諸国鎮撫御勅使使附御警衛大名衆御日々聞書雜録 庭殿大名會酒井上秋仙(右二候年代日記諸雜録)	慶応四戊辰八月	1868	8		東山道鎮撫總督 同副総督	横帳	1	東山道諸国信々村々御役人中	30は綴り		
114	24	(戯れ歌か)	明治四辛未年九月	1871	9		信州諏方郡上原郷住人矢島信智	横帳	1				
115	85	御布告書寫	明治四辛未年九月	1871	9		信州諏方郡上原郷住人矢島信智	横帳	1	当時の諏訪の情勢が記されている。			
116	263	御布告書寫	明治四辛未年九月	1871	9		信州諏方郡上原郷住人矢島信智	横帳	1	外国船来訪への幕府の対応を批判した戯れ歌			
117	107	(書留)	明治四辛未年九月	1871	9		信州諏方郡上原郷住人矢島信智	横帳	1	維新時の家族について書き留めたものの。			
118	358	歳号調寶記	嘉永四辛未年九月吉祥日	1851	9		嘉永四辛未年九月吉祥日	小帳	1	年号書留。最後に河合曾良についての書留。			4 その他
119	153	3(御表衣祝由緒)		1872			上原郷矢島性	切紙	1	153-1の包紙にあり。			
120	153	6(難末夫田緒書)		1872				切紙	1	153-1の包紙にあり。			
121	158	3(難末夫家系譜)		1872				切紙	1	158-1の包紙にあり。			
122	158	4(右近末夫家系譜)		1872				折紙	1	158-1の包紙にあり。			
123	158	5(右近末夫家系譜)		1872				折紙	1	158-1の包紙にあり。			
124	158	6(九頭井大夫・右近末夫系譜)		1872				切紙	1	158-1の包紙にあり。			
125	158	7(九頭井大夫家系譜)		1872				切紙	1	158-1の包紙にあり。			
126	86	(宛)	正徳五年乙未ノ六月廿一日	1715	6	21		平切の綴紙	1	大祝即位式につき書留	端裏書「六月三日□□殿江」	7	1 宗教
127	288	乍恐以書附奉願上候	享和四子年二月五日	1804	2	5	信濃国一宮上諏方 九頭井大夫 職 矢嶋千之丞 左近大夫職 矢嶋左源治	堅紙	1	風折高帽子紗袴衣等免許願。	奥書あり。差出「信濃国一ノ宮諏方社 諏方大祝」受取「御本所様 御役人中様」		
128	411	(神通大事写)	文化九子申二月	1812	2			巻物	1				
129	295	覺	安政三丙辰年正月	1856	1		増次数馬 茅野左平太 矢嶋文吉 矢嶋右京 矢嶋主水 但馬 茅野式部	折紙	1	御湯神楽勸行料請取書。			
130	294	(御湯神楽御初穂納書)	安政三丙辰年	1856			新井村 願主 田村覚左衛門	綴紙	1	紙が外れている。			

目録番号	史料番号	文書名	年月日	西暦	月	日	差出人・作成者	受取人	形態	数量	内容	備考	分類
169	316	口上書	甲申七月五日	1872	7	5	諏訪上原村社旧神官 矢崎光忠	土橋多門殿	縦紙	1	矢崎光忠家系口上。	端裏書「矢崎光忠」	
170	254	乍恐奉願上候口上之覺	明和七庚寅年八月	1770	8	庄九郎	土橋多門殿	縦紙	1	下桑原は庄九郎の檀中だったが、喪中により神事を外記太夫に依頼したところ、その後下桑原の神事に庄九郎が呼ばれなくなったことに関する願書。			
171	155	乍恐以上口上書奉願上候御事	明和八辛卯十二月日	1771	12	九頭井太夫 右近太夫 成平	土橋多門殿	縦紙	1	神前獨立出入の儀につき。			
172	29	乍恐以上口上書願上候	安永四乙未三月日	1775	3	九頭井太夫・右近太夫・成平	土橋多門殿	縦紙	1	神前獨立出入の儀につき。			
173	31	乍恐以上口上書奉願上候御事	安永四乙未四月日	1775	4	九頭井太夫・左近太夫・右近太夫・采女太夫	土橋多門殿	縦紙	1	成平の儀につき。			
174	435	乍恐以上口上書奉願上候	安永四乙未年六月	1775	6	九頭井太夫	土橋多門殿	縦紙	1	上中九頭井太夫檀中につき。			
175	257	御尋二付申上候口上書	寛政三辛亥十二月日	1791	12	真柳太夫 左近太夫 左源太夫 右近太夫 源太夫 九頭井太夫	土橋内蔵太	縦紙	1	式部返答書の儀に付。			
176	259	御尋二付口上書	寛政四壬子年五月晦日	1792	5	上原村九頭井太夫方 九兵衛 菅子 母之助	郡御奉行所様	縦紙	1		去年八月大風により九頭井社暨三本坂へ、四本坂返りにつき。		
177	176	〔大夫給分渡不足之米・大豆上〕	〔寛政九年カ〕六月	1797	6	外記太夫 式部 源太夫 但馬 九頭井太夫 仙之丞 右近太夫 庄九郎 左近太夫 左源治 夫 庄九郎 左近太夫 左源治 真柳太夫 新兵衛			1	安永2年(1773)から寛政8年(1796)までの、給付されなかった米・大豆の書上。177と同一文書。			
178	177	〔大夫給分渡不足之米〕	巳六月(寛政九年丁巳年七月十三日写)	1797	6	外記太夫 式部 源太夫 但馬 九頭井太夫 仙之丞 右近太夫 庄九郎 左近太夫 左源治 夫 庄九郎 左近太夫 左源治 真柳太夫 新兵衛			1	439と同一文書。			
179	414	上社本夫共給分納方并割賦之覺	寛政九丁巳年六月日	1797	6	松元之助 郡奉行兼帯 竹雄石 衛門 右同断 久平左衛門	外記太夫 本社末社 齋燈	縦紙	1		奥書に「巳七月十三日写シ置候」とあり。		
180	415	〔上社本夫共給分納方并割賦之覺〕	寛政九丁巳年六月日	1797	6	松元之助 郡奉行兼帯 竹雄石 衛門 右同断 久平左衛門	外記太夫 本社末社 齋燈	縦紙	1		奥書に「巳七月十三日写シ置候 本書ハ小町屋二預分置候」とあり。		
181	438	〔大夫給分渡不足之米〕	巳六月(寛政九年丁巳年七月十三日写)	1797	6	外記太夫 式部 源太夫 但馬 九頭井太夫 仙之丞 右近太夫 庄九郎 左近太夫 左源治 夫 庄九郎 左近太夫 左源治 真柳太夫 新兵衛			1	177と同一文書。		7 宗教	
182	35	乍恐奉願上口上書	文政十三庚寅年十二月十三日	1830	12	13 嶋左源太・増沢数馬・茅野佐平太	土橋左膳殿	縦紙	1		茅野芳之助につき。		
183	173	乍恐奉願上口上覚	〔近世〕	1868	3	2 九頭井太夫	土橋東馬殿	縦紙	1		九頭井太夫、源太夫とともに塚原村御頭勤めるにつき。143と同一文書。		
184	143	乍恐奉願上口上覚	〔近世〕三月	1868	3	九頭井太夫	土橋東馬殿	縦紙	1		九頭井太夫、源太夫とともに塚原村御頭勤めるにつき。173と同一文書。		
185	110	從神祇屋被 仰付十ヶ状 書上之寫	明治三年九月日	1870	9	諏方上社		縦紙	1		諏方上社の古文書や系図などの写し110は綴り		
186	419	諏訪上社三十九社						縦紙	1		上中下の十三所の書上と矢崎氏の系図		
187	4	神屋見舞名面印帳	弘化二十月	1845	10	上場沢新田		横帳	1				
188	56	御參籠所江詰る事	〔近世〕五月四日	1868	5	4 神劔上諏方上原郷 持主矢嶋甲斐正藤原信正		切帳	1		御宝蔵の宝鏡盗難につき宿直書留。		
189	14	方代家職覽帳	寛政四壬子歳八月吉日	1792	8			横帳	1		寛政4年8月19日から嘉永8年11月4日までの、九頭井太夫周辺の記録。		
190	16	上京二付勸化帳	弘化四丁未年十一月	1847	11	矢嶋主水		横帳	1				
191	5	日待檀中名面帳	嘉永五年五月朔日	1852	5	1 矢嶋甲斐正		横帳	1				
192	11	日待檀中名面帳	嘉永五年五月日	1852	5	甲斐正		横帳	1				
193	270	御城知行口 御神楽覽帳	安政五戊午年	1858		持主 矢嶋信房		横半帳	1				
194	156	小宮祭覽帳	萬延元庚申年十月日	1860	10	九頭井太夫		横帳	1				
195	305	覽	〔近世〕四月六日	1868	4	小山慶彌		切帳	1		日待檀中より集金請書。	包紙上書「一札 小山田方請取」	
196	10	年書覽	〔近世〕	1868		持主 甲斐守		切帳	1		柳家の干支を書き記したものを。		
197	198	〔出緒書〕	明治二年己巳二月一日(原本)	1869				切帳	1		上原千鹿頭社・塚原村千鹿頭社・御社宮司社の由緒書		2 九頭井太夫 神事
198	319	一札	明治三庚午年十一月	1870	11			縦紙	1		塚原村鎮守社調書。		

目録番号	史料番号	文書名	年月日	西暦	月	日	差出人・作成者	受取人	形態	数量	内容	備考	分類
199	46	誓廻詞	慶應四辰二月	1868	2		信濃国二ノ宮上伊那郡小野村矢野村夫立澤右近守 藤原宗徳	氣吹屋大人	竪紙	1	祝詞	下1/3を折り、2/3に字を書いている。	
200	51	神拜次第	[近世]	1868					折紙	1	白川殿神拜式	51は1枚の紙に書かれている。	
201	51	[雛形]	[近世]	1868				御本所役人中	小切紙	1	請書の雛形	51は1枚の紙に書かれている。	3
202	57	[附書]	[近世]	1868				北小路様・落合様・白井様		1	藤広につき。		神社
203	51	[速状]	[近世] 正月十四日	1868	1	14	山田佐源太昌俊 山田幸紀昌	上伊奈諸社家方中	折紙	1	吉田殿から請書提出命令。	51は1枚の紙に書かれている。	
204	170	[祭文例]	明治二年三月	1869	3		賀茂大神宮正四位賀茂経春		折帳	1	明治二年から六年の布告や文書などの写。		7
205	268	[日記]	[明治二年～六年]	1869			諏訪郡上原里 矢島重之輔信智		帳面	1			宗教
206	256	[布告写]	辛未十一月(明治四年)	1871	11		神祇官			1			
207	421	乍恐口上書〔 〕	宝永八卯二月廿六日	1711	2	26	訴訟人 大林宮内	寺社御奉行所	綴紙	1	美濃国本高々沢 同神畑山十二人式 法違いにつき。	写	
208	34	差上申御請一札書之事	明治二年六月	1869	6		右村願入誰印	御役所	竪紙	1	筑摩郡北小野村某が神禊祭へ改めるにつき。雛形か。		
209	50	乍恐以書附奉願上候	明治二巳年六月	1869	6	6	右村願入	(塩尻御役所)	竪紙	1	筑摩郡小野村利兵衛等神禊祭改につき。雛形。	奥書あり。	5
210	39	乍恐以書附奉候	[近世]	1871			当国当郡小野村 矢彦社神取 伊奈宮司	伊奈縣社寺御役所様	竪紙	1	除仏願。雛形か。		
211	6	諸事折帳	天保七年三月吉日	1836	3		神功上原方上原郷 矢嶋氏		小帳帳	1			6
212	81	[包紙]							切紙	1			7
213	22	天保四癸巳十一月日荒年二付〇〇并劉法解毒法禁忌書写〇郡中三千石御觸書写	天保四癸巳十一月日	1833	11		矢嶋信智写		折帳	1		「京橋吉田殿る之達し書在中」とあり、裏面に「のし」などあり	7
214	59	方書	安政六年八月十九日	1859	8	19			折紙	1	薬の成分表。		
215	48	[薬の成分書留]	[近世]	1868			旅籠町君吉			1		「古城鏡」とあり。	
216	207	[薬の広告か]	[近世]	1868			京富役上り町木家取込所 宮坂無午右衛門 藤森治郎兵衛所 役 宮坂弥右衛門主役 小和田所全出店 藤森弥兵衛全役 同文兵衛半役 同太兵衛先役 同平助跡役		竪紙	1			8
217	60	増沢頼連薬	[近代]	1944			上中壺権現様近所 良左衛門		小切紙	1	薬の成分表。		
218	61	[金光丹の成分表]							小切紙	1	薬の成分表。		
219	69	[薬の成分表]							小切紙	1		「宇津富五郎・上原平蔵」の名あり。	
220	158	[徳川家臣旗本上原平蔵自筆家系譜米]	安政四年三月	1857	3				切紙	1		158-1の包紙にあり。	
221	355	目録	元文元丙辰年八月	1736	8	8	九頭井大夫	武田信玄判物・朱印状の目録。		1			9
222	434	目録	元文元丙辰年八月	1736	8	8	九頭井大夫	武田信玄書状目録	竪紙	1			
223	272	[袋]	明治五年一月日	1872	1		矢嶋信智		袋	1	裏面に「表書ヨリ外学校用書在中」とあり。		
224	79	[包紙]							切紙	1		「別所書通」とあり	
225	68	[断簡]	文政九丙戌年八月三日	1826	8	3	甲州内藤清右衛門 松本源重郎 機手彦左衛門		断簡	1		65・66・67と同じ包紙にあり。	10
226	334	[金銭書上]								1	「一 貳分 酉分懸合也 勘之丞」		

3 近代

目録番号	史料番号	文書名	年月日	西暦	月	日	差出人・作成者	受取人	形態	数量	内容	備考	分類
227	110 3	旧神宮仲間一同之分 旧録 取調大蔵省江書上寫	明治八年癸亥年七月廿五日	1875	7	25			縦帳	1		赤罫紙、110は綴り。	1 旧録 取調
228	1	組合十戸田別役場之調査 〔近代〕		1906			二十五口 矢島信智写		横帳	1		赤罫紙・「旧録取調書」の裏面に書かれているので、旧録を調査したものか。	
229	97	〔年貢高書上〕		1944					横帳	1			3 地租 改正
230	150	〔葛井社敷地図〕								1		両面に書かれている。	
231	251	〔旧録取調二付覽〕		1878					小縦帳	1		青罫紙	2 戸口
232	174	神楽方旧録取調上書記	明治十一年十一月三十日	1877	11	30	矢島信智			1		赤罫紙	
233	249	旧録取調書		1878			筑摩縣宮下信濃の國諏訪郡第拾五大區四小區宮川村三戸六拾七番地住旧神宮神樂役 諏方上社小別當外記大夫 茅野光豊 外六右			1			4 政治・ 行政
234	393	〔家族調査〕		1880	12	18	矢島信智	衛生委員 御中		1			
235	392	〔略歴書〕	〔明治十三年十二月十八日〕	1898			〔矢嶋茂登〕			1			1 戸籍
236	427	〔家族書上〕	〔大正元年〕	1912						1		425の包紙に入っている	
237	200	〔覽〕							縦紙	1	上社神宮矢嶋信家の家族構成等を書いたメモ書き。		1 人事
238	246	〔下書〕								1	戸籍調査の下書。	端裏書「戸籍調査出し下」	
239	248	明治十三年十二月廿日 書 上寫 戸籍調 并二十戸所 有地價覽	明治十三年十二月廿日	1880	12	20				1		赤罫紙・包紙か	4 土木・ 水利
240	388	戸籍謄本	明治四拾五年四月拾九日	1912	4	19	長野縣諏訪郡永明村戸籍史代理 助 役 加藤坂太	本郷村長	縦帳	1			
241	221	婚姻届	大正四年拾月日	1915	10		小池満栄 ちん 小池六平 寺島喜			1			1 政治・ 行政
242	247	御請一札	明治七年八月廿九日	1873	8	29	類 牛山権四郎 同 牛山佐平治 同 組合五長 宮坂善藏 同 矢嶋信智	戸長 資泰通殿 副戸長 土橋新左衛門殿 同 寺嶋菊松殿		1		赤罫紙	
243	253	記	明治八年十一月十七日	1875	11	17	筑摩縣參事 高木権矩			1		職業調査通達。	3 地租 改正
244	310	出寄留御届	明治十九年十二月九日	1886	12	9	右 矢島保男 山梨県北郡留郡上野 原村第百廿二番戸 家主 水越賢富	長野縣 諏訪郡 永明村 四 賀村 戸長 役場御中	縦紙	1	矢島保男山梨県巡査奉職につき、上野原村寄留の届。	包紙あり。包紙上書「寄留書控」	
245	311	出寄留御届	明治十九年十二月九日	1886	12	9	右 矢島保男 山梨県北郡留郡上野 原村第百廿二番戸 家主 水越賢富	長野縣 諏訪郡 永明村 四 賀村 戸長 役場御中	縦紙	1	矢島保男山梨県巡査奉職につき、上野原村寄留の届。	包紙あり。包紙上書「寄留書 保男」。外に矢嶋つねの戸籍の写等あり。	4 土木・ 水利
246	139 1	地券書上書控	明治七年十一月	1874	11		長野縣	(特主 矢島信智)	横帳	1		139は綴り。	
247	137 6	地券	明治十二年二月八日	1876	2	8		(特主 矢島信智)		1		墨書	3 地租 改正
248	125	地價半格金受取証	明治十一年	1877			上原伍長惣代 土橋義郷 北原口之 介 土橋喜代藏	矢島信智殿		1			
249	137 5	地券	明治十六年一月八日	1883	1	8	長野縣	(特主 矢島信智)		1		印刷・一部墨書	3 地租 改正
250	137 7	地券	明治十六年一月八日	1883	1	8	長野縣	(特主 土橋喜代藏)		1		印刷・一部墨書	
251	137 2	地券	明治十九年六月一日	1886	6	1	長野縣 主事 諏訪郡長坂本俊秀	(特主 矢島信智)		1		印刷・一部墨書	3 地租 改正
252	137 3	地券	明治十九年九月三日	1886	9	3	長野縣 主事 諏訪郡長坂本俊秀	(特主 矢島信智)		1		印刷・一部墨書	
253	137 8	地券	明治十九年九月三日	1886	9	3	長野縣 主事 諏訪郡長坂本俊秀	(特主 矢島信智)		1		印刷・一部墨書	3 地租 改正
254	87 4	〔地代書上分〕	明治廿零年一月廿日	1888	1	20			横帳	1		2枚4頁・87は綴り	
255	137 1	地券	明治廿二年三月三十日	1889	3	30	長野縣 主事 諏訪郡長島居義處	(特主 矢島信智)		1		印刷・一部墨書	3 地租 改正
256	137 4	地券	明治廿二年三月三十日	1889	3	30	長野縣 主事 諏訪郡長島居義處	(特主 矢島信智)		1		印刷・一部墨書	
257	87 1	記	〔年未詳〕 〇十二月廿六日	1944	12	16	岩井竜治郎	山部分 牛山佐平治様	半切の 縹紙	1	請求書か報告書	87は綴り	4 土木・ 水利
258	87 2	〔覽〕		1944					切紙	1	金銭書上	87は綴り	
259	87 5	〔覽〕		1944					切紙	1		87は綴り	4 土木・ 水利
260	108	所有地價録々覽		1944					横帳	1	地価書上		
261	126	〔覽〕		1944						1		赤罫紙	4 土木・ 水利
262	216	〔覽〕		1944					縦紙	1	土地書上		
263	13	小江川土手普請帳	明治八年四月十一日	1875	4	10			横帳	1		明治18年のもの綴られている。また、大ききの違う紙も綴られている。	4 土木・ 水利
264	149	乍恐奉願上口上書之御事	明治八年卯年	1875			上原村 九頭井		縦紙	1	小江川用水の本水を押し上げると、溝水の時葛井池が砂利で埋没してしまうため、古川へ水を通すようにという願書。		

目録番号	史料番号	文書名	年月日	西暦	月	日	差出人・作成者	受取人	形態	数量	内容	備考	分類
299	199	受取証					岩井龜次郎無尽世話人 寺嶋市次郎土橋龜治郎 土橋友作 岩井茂十	矢島茂登殿	折紙	1	無尽金の受取証		経済・産業
300	217	太福講無尽出金調取記					藤森勝太発起無尽世話人 飯田口正遊座貞桓 大宮清治 柳澤平助 面角口治	矢島茂登殿	折紙	1	紙が大きい。		2
301	238	弔								1	無尽に関する寛か。		4
302	154	領収證	明治卅八年十一月廿五日	1905	11	25	横内區 上原區	矢島茂登殿		1	中央線ちの停車場通路開削費に一円を補助した事による領収書。		5
303	58	[寛]	[近代]	1944					断簡	1	薬の成分表か。「甲府忍光寺村安野東伯」などの名あり。		3
304	385	[感謝状]	明治二十五年十月廿四日	1892	10	24	長野縣知事從四位勲三等淺田徳則	長野縣信濃國北安曇郡池田村寄留 矢島茂登		1	水害罹災救助金三円寄付金感謝状		3
305	141	謝状	明治卅二年一月九日	1899	1	9	日本赤十字社	矢島茂登氏		1	日本赤十字社長野県諏訪郡委員部総会費の内へ金五拾銭寄贈につき感謝状。	封筒	2
306	206	[感謝状]	明治四十一年二月一日	1908	2	1	宮城縣知事從四位勲二等勳井英三郎 福島縣知事正五位勲四等平願定太郎 郎 蔵手縣知事正五位勲四等登井信一	長野縣諏訪郡永明村 矢島茂登		1	明治38年蔵手縣下凶作に窮民救恤として矢島茂登が金拾銭寄附したことに對する礼状。		2
307	296	無念之証	明治十年九月十五日	1877	9	15	荒川庄八	組合倍長 小池治郎吉殿 牛山知恵三郎殿	赤罫紙	1	荒川庄八金刀比羅祭礼で酒興の上、狂乱したため、禁酒の念書。		3
308	229	領収證	明治卅二年十二月日	1899	12		諏訪樂會講社本部	永明村 矢島茂登殿		1	諏訪音楽隊設置資金金壹圓の領収書。		3
309	274	[学校敷地井二門標御達書]	[明治七年戊辰] 十月廿九日	1874	10	29	[筑摩県庁]			1	包紙あり。		3
310	140	国語教育ツツイテ	昭和五年十二月八日	1930	12	8	葛井庵主人		罫帳	1			教育
311	276	横内村生能人員							罫紙	1			教育
312	277	横内村生能人員録							罫紙	1			教育
313	278	[上原村生能人員録]							罫紙	1			教育
314	279	[上原学校人員録]							罫紙	1			教育
315	130	地所書入證	明治十四年四月日	1881	4	4	永明村 借主 矢島信智 請人 飯田俊蔵	上原学校 学務委員 御中	罫紙	1			4
316	127	地所書入證	明治十六年四月一日	1883	4	1	永明村 借主 矢島信智 請人 飯田俊蔵	上原学校 御中	罫紙	1			4
317	95	[上原学校下絵圖]	[近代]	1912				學校教員 遊座貞垣殿 執事 寺嶋伊三郎殿	罫紙	1	上原学校の間取り図		1
318	119	記	明治十二年三月	1879	3				罫紙	1	宮坂はつ休学につき。		1
319	52	辞職願	明治十三年八月	1880	8		諏訪郡永明村 上原学校学務委員 河西源兵衛		罫紙	1			1
320	273	[上原学校世話人休職願]	[近代]	1912					罫紙	1			1
321	189	[葬列役割表]							赤罫紙の罫紙	1			1
322	219	証	明治廿三年三月	1890	3		展覽會	矢島茂登殿	半切の罫紙	1	教育展覽會へ矢島茂登が金五拾銭を寄附した事による領収書。		2
323	21	祝詞正訓一卷	明治六癸酉年一月吉日写	1873	1		第九拾八區諏訪郡上原村九拾七番屋敷居住職訪上ノ社旧神宮 矢嶋氏		罫帳	1			1
324	341	修了證書	明治三十五年四月二十七日	1902	4	27	諏訪郡職職會議所長山中助蔵	矢島信智		1	祭式一致講習会修了証書。		1
325	346	證	明治三十五年八月四日	1902	8	4	長野縣皇典講究分所	矢島信智		1	祭式講習会修業証書。		1
326	347	修業證	明治三拾五年十一月廿七日	1902	11	27	長野縣神職會議所長岡清英	矢島信智		1	祭式・祝詞・公文修業証。		1
327	167	證	大正九年九月十三日	1920	9	13	長野縣皇典講究分所長正四位勲二等 赤星典太	矢島茂		1	神社祭式祝詞作文の修了証。		5
328	142	靈祭祝辞	[昭和六年十月四日]	1931	10	4				1	目頭の方で紙が破れている。		1
329	416	[御霊祭詞]	昭和六年七月十八日	1931	10	18				1			1
330	442	[祝詞]								1			1
331	265	[九頭井社絵圖]	[明治十五年办]	1882			[矢島信智]		罫紙	1	長野県の明治十五年調査により、税金上納となったため、敷地を改正した図。	色付	1

目録番号	史料番号	文書名	年月日	西暦	月	日	差出人・作成者	受取人	形態	数量	内容	備考	分類
332	342	[辞令]	明治三十三年十二月十五日	1900	12	15	長野縣	矢島信智	1	葛井社社掌の辞令。			
333	343	[辞令]	明治三十三年十二月十五日	1900	12	15	長野縣	長野縣諏訪郡永明村字九頭井村社葛井社々掌矢島信智	1	千鹿頭社社掌の辞令。			
334	344	[辞令]	明治三十三年十二月十五日	1900	12	15	長野縣	長野縣諏訪郡永明村字九頭井村社葛井社々掌矢島信智	1	八幡宮社掌の辞令。			
335	250	親任神官詞	明治三十四年一月一日	1901	1		岩波三代吉		1				
336	260	上社旧神宮隔調書 遼新之節職分取調書額口入込覺	[明治三十四年]	1901					1				
337	186 1	社掌推薦書	大正九年九月三十日	1920	9	30	右神社氏子總代 諏訪郡永明村一千三百八番 土橋今朝藏 全 千八百七番地 飯田儀胤 全 百八十三番地 寺島常右衛門	長野縣知事赤星典太郎	縦紙	1	明治六年から三十四年迄の書類の覺。神社由緒などもあり。	186は2を除いて綴り	
338	186 3	社掌絵料届	大正九年九月三十日	1920	9	30	右神社氏子總代 諏訪郡永明村一千三百八番 土橋今朝藏 全 千八百七番地 飯田儀胤 全 百八十三番地 寺島常右衛門	長野縣知事赤星典太郎	縦紙	1		186は2を除いて綴り	
339	186 4	資格證明書	大正九年九月三十日	1920	9	30	永明村長 土橋友作		縦紙	1		186は2を除いて綴り	
340	186 5	履歴書	大正九年九月三十日	1920	9	30	矢島茂		縦紙	1		186は2を除いて綴り	
341	186 6	[断簡]	大正九年九月三十日	1920	9	30			縦紙	1		186は2を除いて綴り。他に長野縣巡査の卒業証書、167の證明書、諏訪中学校修了書、小学校教員免許状の写あり。	
342	186 2	[記明書写]							縦紙	1	167と大正八年四月二十五日付の小學校教員免許状の写。	186の綴りに挟まっていたもの。	5 宗教
343	168	領収證	明治卅一年二月	1898	2		官幣中社諏訪神社 社務所	永明村 矢島茂登殿	1	諏訪神社個人紀念銅版及び額舎建設預金の領収証。			
344	159	講録							1	1	赤野紙・青野紙が混在。		
345	282	[着座図]							1	1	官員と神官の着座位置と神事の手順。		
346	153 5	[明治六年内務省御調之節書上寫]	明治六年	1873					1	1	柳井泉神社・筑摩郡須々岐水神社の叙位年の調査書。	153-1の包紙にあり。	
347	153 2	藤原江社地評教書出之寫	明治七年十一月廿三日	1874	11	23	矢島信智	永明村 御役所	1	1	153-1の包紙にあり。		
348	7	柳井泉神御位年限其外神社地評教書在ル	[近代]	1906			矢島信智		1	1	包紙。153-2～6の文書が入る。		
349	153 1	長野県信濃國諏訪郡永明村上原 矢島神社圖面	[近代]	1906			矢島信智		1	1	矢島神社の総図		
350	267	領収證	明治四十二年十一月廿七日	1909	11	27	葛井社々掌 茅野三郎 同氏子總代 寺嶋玉藏 寺嶋岡吉 北原善太		1	1	鉄鍬2個・石鍬5個の領収証。		
351	441	未年縣廳改御改之節撰社未社評教覺	[近代]	1944					1	1	上下桑原・上原・横内・塚原・矢ヶ崎・南大塚の珉社未社の不動産についての調査。		
352	12	御布造書留記	明治六歲三月一日	1873	3	1	拾人組判頭		1	1	横帳		
353	269	諸御布告書寫	[明治七年か]	1874					1	1	横帳		
354	354	[布告写]							1	6	幕末維新に出された布告の写。		
355	423	[辞令]	明治七年九月	1874	9		祭主大教正三桑西季知	矢島信智	1	1	神風講社取締の辞令。		
356	266	筑摩縣江地券調二付書上ノ節覺書	明治六歲西曆年五月十三日	1873	5	13	矢島信智写		1	1	頼岳禪寺境内地図		
357	153 4	[小池満慶由緒]	[近代]	1944					1	1	153-1の包紙にあり。		
358	166	[横内吉右衛門家系図]	[近代]	1944					1	1			
359	271 4	[矢島信智系譜覺]	[近代]	1944					1	1	271は綴。		
360	291	[系譜下書]	[近代]	1944					1	1			
361	318	[矢嶋光忠家譜]	[近代]	1944					1	1			
362	362	矢島性家系	[近代]	1944					1	1			6 家
363	417	[矢嶋家系図]	[近代]	1944					1	1			

職訪
上社

幕末
維新

神道

講社

寺院
関係

家

1
由緒

「教部省江書上ケ下々」や「右明治三年八月廿七日高島江出 神祇官江書上書之写」とあり。

目録番号	史料番号	文書名	年月日	西暦	月	日	差出人・作成者	受取人	形態	数量	内容	備考	分類
364	437	[矢島家系図]	(近代)	1944					折紙	1		一部欠。	1 出緒
365	378	證	明治十四年四月	1881	4		長野縣醫學學校	矢嶋茂登		1	進級証		
366	389	[辞令]	明治十四年六月	1881	6		長野縣醫學學校	矢嶋茂登		1	倉長の辞令		
367	379	證	明治十四年十月	1881	10		長野縣醫學學校	矢嶋茂登		1	進級証		
368	375	證	明治十五年四月	1882	4		長野縣醫學學校	矢嶋茂登		1	進級証		
369	381	證	明治十五年十月	1882	10		長野縣醫學學校	矢嶋茂登		1	進級証		
370	376	證	明治十六年四月三十日	1883	4	30	長野縣醫學學校	矢嶋茂登		1	進級証		
371	387	[長野縣医学学校卒業証書]	明治十七年二月廿六日	1884	1	26	長野縣醫學學校長肥田野畏三郎	矢嶋茂登		1			
372	391	[卒業証書成續表]	明治十七年一月	1884	1		長野縣醫學學校	矢嶋茂登		1			
373	390	[獎金支給書]	明治十七年十二月廿七日	1884	12	27	北安曇郡役所	公立大町分病院院長矢嶋茂登		1	公立大町分病院院長在職中、勉勵につき、感勞として金 25 円贈与の状。		
374	183	[慰勞金贈与状]	明治十九年八月十四日	1886	8	14	北安曇郡役所	矢嶋茂登		1			
375	23	葬式入費簿	明治廿年一月廿八日	1887	1	28	矢嶋氏		小帳帳	1			
376	386	[辞令]	明治廿二年三月十四日	1889	12	14	長野縣	矢嶋茂登		1	北安曇郡医の辞令		
377	384	[辞令]	明治廿四年九月八日	1891	9	8	長野縣	矢嶋茂登		1	北安曇郡医の辞令		
378	182	縮盟状	明治廿七年八月三十一日	1894	8	31	日本赤十字社総裁 大藪位彰仁親王 日本赤十字社長 正三位勲一等子爵 佐野常民	矢嶋茂登氏		1	矢嶋茂登氏を日本赤十字社の正社員とする縮盟状。封筒あり。		2 人事
379	382	[辞令]	明治廿八年二月一日	1895	2	1	長野縣	矢嶋茂登		1	諏訪郡医の辞令		
380	377	[嘱託書] 明治三十一年十月廿九日 月廿九日	明治三十一年十月廿九日	1898	10	29	長野縣	矢嶋茂登		1	永明尋常小学校医の嘱託書		
381	271	1 [矢島信智履歴書下書]	(近代)	1906			矢島信智		切紙の 綴紙	1		271 は綴。	6 家
382	271	2 履歴書	(近代)	1906			矢島信智		綴紙	1		271 は綴。	
383	271	5 履歴書	(近代)	1906			矢島信智		綴紙	1		271 は綴。	
384	383	嘱託書	明治四十四年一月二拾五日	1911	1	25	諏訪郡四賀村長矢嶋末吉	矢嶋茂登		1	諏訪郡四賀村隔離病舎担当医の嘱託書		
385	380	修了證書	大正貳年三月廿六日	1913	3	26	長野縣師範學校長從六位勲六頭星菊太	矢嶋信孝		1	尋常小学校准教員学科講習修了證書		
386	400	[推薦状か]	(近代)	1944						1	「正風中洲支會幹事當選御承諾被下度候 矢島榊柳君」		
387	235	祭詞	大正二年十二月十七日	1913	12	17	松清會		綴紙	1	故矢島國手への弔辭。		
388	395	[弔辭]	大正二年十二月十七日	1913	12	17	諏訪郡醫師會		綴紙	1	矢嶋茂登君弔辭		
389	152	靈祭之許刀波	(近代)	1944						1	矢島美禰子死去につき、靈祭の詞。		
390	180	弔詞								1	包紙		3 葬式
391	181	靈祭乃理刀								1	包紙		
392	146	誄辭	明治三十九年七月十二日	1906	7	12			綴紙	1	矢島信智死去の誄辭		
393	145	雜事覺書	[明治 34 年か]	1901			矢島信智		小帳帳	1			
394	422	[書簡下書]	(近代)	1911					折紙	1			
395	446	[書簡]	[年未詳] 七月 [昭和 40 年頃か]	1905	7		先生		便箋	1	「長野縣諏訪郡北山村蓼科温泉大プール 高原ホテル」の印あり。		
396	431	[書簡]	昭和四十年八月十日	1965	8	10	細川隼人	矢島こちよう殿	便箋	4	武田信玄書状につき。		
397	444	[書簡]	[年未詳] 八月十日 [昭和 40 年頃か]	1965	8	10	今井野菊	矢島様	便箋	1	「株式会社 地紙世商店」の便箋。		
398	234	印鑑證明願	大正五年七月卅一日	1916	7	31	矢島茂	諏訪郡永明村長榊澤鶴之助殿 代理 柳澤市之丞		1			
399	112	[書簡か]							綴紙 (後欠)	1	和歌などが書かれている		
400	433	諏訪史料 古文書展覽會目録	大正十四年五月三十一日	1925	5	31	信濃教育會諏訪部會			1		印刷物	
401	117	[袋]								1	上書「証書在中」		7 其他
402	158	1 [包紙]							もと切 紙	1	包紙上書「羽書類」。包紙は御表衣初由結書を包紙にしたもの。		
403	218	[包紙]								1	235 の包紙		
404	287	[袋か]								1	288 ~が入っている。		

目録番号	史料番号	文書名	年月日	西暦	月	日	差出人・作成者	受取人	形態	数量	内容	備考	分類
405	425	[包紙]								1		426・427が入っている。	7
406	405	[短冊]								12			その他
407	432	[不明]								1			その他

4 宗教具

目録番号	史料番号	文書名	年月日	西暦	月	日	差出人・作成者	受取人	形態	数量	内容	備考	分類
408	412	笏								1		榎の木製。長さ36.4cm、幅6.2cm。昭和13年12月7日付東京朝日新聞に包まれている。	1
409	525	風折烏帽子								1			1
410	356	[御札]	嘉永元年四月	1848	4		矢嶋甲斐			1	「五穀豊穰 諸災悉除 諏方宮御祈禱 御祝 矢嶋甲斐」		
411	527	上社御祈禱御守護／鹿食免							版木	1		片面に上社御祈禱御守護、反対の面に鹿食免が彫られている版木。	1
412	528	諏方本宮一千度御杖大麻／諏方上社五穀成就御守(版木)							版木	1		片面に諏方本宮御杖大麻、反対の面に諏方上社五穀成就御守が彫られている。	1
413	281	[印影]								1			
414	526	襷							鉄製	1			
415	537	太鼓								1			
416	284	[御札写]								1			
417	286	1 [交]	萬延元年極月二日	1860	12	2	矢嶋氏持主			1		286-2～27入	1
418	286	2 [金銭書上]	[万延元年頃か]	1860					小切紙	1			
419	286	3 [天御中主命感應祈收]	[万延元年頃か]	1860					小切紙	1			
420	286	4 諏方本宮 鹿食免	[万延元年頃か]	1860						4			
421	286	5 [切札]	[万延元年頃か]	1860						1			
422	286	6 [切札]	[万延元年頃か]	1860						1			
423	286	7 [切札]	[万延元年頃か]	1860						1			
424	286	8 [切札]	[万延元年頃か]	1860						1			
425	286	9 [寛]	[万延元年頃か]	1860						1			
426	286	10 [寛]	[万延元年頃か]	1860						1			
427	286	11 松尾唯之進時行	[万延元年頃か]	1860					断簡後欠・木版	1			
428	286	12 [棟上式供物宛]	[万延元年頃か]	1860					折紙	1			
429	286	13 天津祝詞太祝詞加持力	[万延元年頃か]	1860						1			
430	286	14 天津祝詞太祝詞加持力	[万延元年頃か]	1860						1			
431	286	15 神變神通力 御守護	[万延元年頃か]	1860						1			
432	286	16 [御札]	[万延元年頃か]	1860						1			
433	286	17 [御札]	[万延元年頃か]	1860						1			
434	286	18 [御札]	[万延元年頃か]	1860						1			
435	286	19 [御札]	[万延元年頃か]	1860						1			
436	286	20 [御札]	[万延元年頃か]	1860						1			
437	286	21 [御札]	[万延元年頃か]	1860						1			
438	286	22 [御札]	[万延元年頃か]	1860						1			
439	286	23 [御札]	[万延元年頃か]	1860			矢嶋甲斐正藤原信房			1			
440	286	24 [御札]	[万延元年頃か]	1860			矢嶋甲斐守藤原信房			1			
441	286	25 [御札]	[万延元年頃か]	1860						1			

目録 番号	史料 番号	文書名	年月日	西暦	月	日	差出人・作成者	受取人	形態	数量	内容	備考	分類
442	286	〔御札〕	〔万延元年頃分〕	1860						1	奉講請豊勢彌次命 新家用 人清淨收]		
443	286	〔御札〕	〔万延元年頃分〕	1860						1	奉講請豊勢彌次命 新家用 人清淨收]		
444	335	〔切札〕								1	〔講請天太玉命〕	286と関連か	
445	336	〔切札〕								1	〔講請天宮賣命〕	286と関連か	
446	337	〔切札〕								1	〔講請天香語山命〕	286と関連か	
447	338	〔御札〕								1	〔諏方大明神 氏神産宮 虫損御祈禱 大祝 ○小児虫加持札〕	286と関連か	2 神事
448	339	〔御札〕								1	〔講請豊勢彌次命 新門出入 清淨〕	286と関連か	
449	340	〔御札〕								1	〔諏方南宮大明神 天地神八百萬神 安鎮祭御祈禱 富□平藏祈〕	286と関連か	
450	468	〔袋〕								1		〔彌番附在中〕とあり。	
451	410	〔御正体御影〕								1	武州川口彌杖寺御正体御影		
452	485	万民八重垣守護尊神								1	刷物		
453	486	〔壱祖神像〕					柳草堂主人謹書			1	刷物		
454	499	〔殿細権現画像〕								1			
455	44	神道大工十八通大事印信許可〔近世か〕		1868						1	半切の 繻紙		
456	532	仏像								1	木像		
457	533	仏像								1	木像		
458	534	厨子								1	木製		
459	553	仏像								1	木像		
460	280	〔天忍總耳尊天津神・國津神〕								1	繻紙		

5 文芸

目録 番号	史料 番号	文書名	年月日	西暦	月	日	差出人・作成者	受取人	形態	数量	内容	備考	分類
461	513	八葉承	寛政四壬子年	1792			久保		堅帳	1			和歌・ 俳句・ 漢詩
462	169	〔謡曲本か〕							版本	1			1 文学
463	350	〔漢詩〕	安政五戊午春日	1858			文明散人健		豆本	1			
464	351	〔漢詩〕					文明健			1			
465	407	〔漢詩〕					矢嶋雅□清原碧城居士修道			1			
466	408	〔漢詩〕	丁未睦月良日				芳石□史			1			
467	443	〔漢詩〕	丁巳詩曆大月				文明			1			2 漢詩
468	445	〔漢詩〕	乙卯元旦詠小月				文明			1			
469	463	〔漢詩か〕					芳想			1			
470	560	〔漢詩〕					□芳樵			1			
471	561	〔漢詩〕					□直			1			
472	138	九十九翁伊藤圭介先生家訓								1			
473	262	〔写〕								1			
474	285	〔手習い入〕							堅帳	1	教育について	〔非賣品〕とあり。 赤部紙・青部紙	
475	514	さ起たま	文政十季丁亥秋	1813			立澤清登持主		帳	1			
476	162	發句取集	明治廿八年五月	1895	5				堅帳・ 版本	1			3 和歌
477	163	明治集抜句 井 詠歌集抜書	明治二十八年十一月	1895	11				小横帳	1			
478	164	發句雜集	明治廿八年	1895			□池産 園柳		小横帳	1			
479	161	發句雜誌	明治卅年七月	1897	7		矢島園柳		小横帳	1			
480	165	聞留雜誌	明治卅一年第一月より	1898	1		東京神田区仲臺菜町十五番地 大八洲 學校事務所		小堅帳	1	和歌に関する書留	裏表紙に「文典講義録 第七一號ノ次」とあり。	

目録番号	史料番号	文書名	年月日	西暦	月	日	差出人・作成者	受取人	形態	数量	内容	備考	分類
481	510	明治三十二年第四集 六拾番歌合	明治32年	1899					縦帳	1			
482	171	歌俳句雑志集	明治三十三年二月廿八日 [明治35年]	1900	2	28	矢島園柳		小横帳	1			
483	403	[和歌]	[近代]	1904			七十五翁 信智			1	「寄松 みどり子の二葉の松といふよりは千代繰りかへず年のおたまき」		
484	404	[和歌]	[近代]	1906			信智			1	「楳市大人の賀年 御千代と嘉添は類ひに敷ぬへし 君か啼ひの限りなき世を」		
485	482	[和歌]	[近代か現代]	1958			雪人		軸装	1			
486	147	[和歌集]					社司久保田元□		縦帳	1			
487	220	[和歌]							縦紙	1	社常矢島大人御冥にかむざりましを惜しみ御前に謹みて 社司久保田元□ 見るしむけ間につけても忍ぶかかにもに尽せしむかしおもへば」		
488	349	[和歌か]								1			
489	353	[和歌か]								1			
490	394	[和歌]					園柳 [春秋安裕雄運佐山書]			1	年の立 花定まるや はつ□		
491	426	[和歌]					□□		短冊	1	「故矢島先生の靈前ニさゝく をしへ子の志たふ古ゝ路や 以かならん きくたにかなし 君のなさは」	425の包紙に入っている	
492	447	明治天皇御覽かるた	安政戊午季春	1858						1	骨牌 198枚		
493	470	[和歌か]					菊代・一二三			1	包紙あり。印刷。470の袋にあり。		
494	471	[和歌]	丑のあき							1	印刷。470の袋にあり。		
495	512	宝の屋し満							縦帳・1 版本				
496	480	[俳句]								1			
497	515	慈明集	明治三十一年十二月	1898	12		長野県信濃国諏訪郡原村百八十七番地 小池泉殘		縦帳 版本	1			
498	516	冬□ら	明治三十一年十二月	1898	12		信濃の国諏訪郡玉川村四百三十八番地 牛山菱草 同村四百四十二番地 牛山明京		縦帳 版本	1			
499	469	[俳句]	明治三十年丁酉初春	1898			天龍湖			1			
500	190	[俳句]					凍湖		短冊	1	松か勢の興に祭るや冬の山	絵と俳句。470の袋にあり。 包紙あり。紐で縛られている。包紙上書「俳吟 毛草 松濤會員 竹田龍 菊床中」	
501	191	[俳句]					一枝		短冊	1	矢嶋雅□の靈に供す 功積を慕ふて今日の積る雪	包紙あり。紐で縛られている。包紙上書「御靈前 北原一枝」	
502	192	[俳句]					素人		短冊	1	矢島夢中君惜みて	包紙あり。紐で縛られている。包紙上書き「上素人」	
503	396	[俳句]					談人			1	「矢嶋氏の新婚を祝して 南天や 別野の垣の こまむすび」		
504	397	[俳句]					園柳			1	「嘉年 天地ともにおふせ千代見□」		
505	398	[俳句]					□			1	「城行や 麦のはたけの 桐の花」		
506	399	[俳句]					園柳			1	「千代こめし 拜むや年の 初日の出」		
507	401	[俳句]					慶山			1	「みそきをぬ 人のこゝろの □哉」	裏書きあり。	
508	402	[俳句]					園柳			1	「数の子や 餅りも □の形のまゝ」	裏書きあり。	
509	462	[俳句]					□□			1			
510	472	[俳句]	午の春							1		包紙あり。「把のし」印刷。475と同一文書。470の袋にあり。	
511	473	[俳句]	午の春							1		包紙あり。「把のし」印刷。474と同一文書。470の袋にあり。	
512	474	[俳句]	いのやよひ							2		包紙あり。包紙上書。「農察閑」印刷。470の袋にあり。	
513	475	[俳句]	甲子春							2		包紙あり。包紙上書。「農察閑」印刷。470の袋にあり。	
514	476	[俳句]	乙うしの□							1		包紙あり。包紙上書。「月よみ」印刷。470の袋にあり。	
515	477	[俳句]	午の春							1		包紙あり。印刷。479と同一文書。470の袋にあり。	
516	478	[俳句]	いのやよひ							1		包紙あり。印刷。470の袋にあり。	

目録番号	史料番号	文書名	年月日	西暦	月	日	差出人・作成者	受取人	形態	数量	内容	備考	分類
517	479	〔俳句〕	□□春				半野閑人筆			1		包紙上書「句種井 信州 月廬屋江湖」2の包紙にあり。470の袋にあり。	4 俳句
518	481	〔俳句〕	乙卯季秋						竖帳	1			
519	511	〔俳句集〕					編輯 白菊社 信州諏訪郡玉川村菊沢 下諏訪竹内三吉板		竖帳・ 版本	1			
520	517	花園							和 本・ 印刷	20		「書林 上諏訪区原町 升屋庄内」印あり。七・八巻は合本。	
521	H 6 - 07	前々々太平記 序目錄壹～廿一	正徳五乙未歳九月十六日	1715	9	16	武陽書林 江戸日本橋通豊工目 須原 茂兵衛 浪華書林 大阪北御堂前 毛 利田庄太郎板		和 本・ 印刷	3			
522	H 6 - 09	信濃地名考 上・中・下巻	明治三十四年九月二十日	1901	9	20	故 吉澤好謙 著／松陽堂 発行		和 本・ 印刷	41			
523	518	信州千人床 巻之壹							竖帳	1	二の丸騒動		
524	519	信州千人床 巻之貳							竖帳	1	二の丸騒動		
525	520	信州千人床 巻之三							竖帳	1	二の丸騒動		
526	521	信州千人床 巻之四							竖帳	1	二の丸騒動		
527	522	信州千人床 巻之五							竖帳	1	二の丸騒動		5 読本
528	04	太平記 巻之壹～四十一					文□堂		和 本・ 印刷	30		「書林 上諏訪区原町 升屋庄内」印あり	
529	05	統太平記 巻之壹～三拾							和 本・ 印刷	40		「書林 上諏訪区原町 升屋庄内」印あり	
530	H 6 - 06	前太平記 巻之壹～四十							和 本・ 印刷	2		「書林 上諏訪区原町 升屋庄内」印あり	
531	H 6 - 10	真書大圖記 初篇四・五							竖 帳・ 墨書	1		「特主 上原安恒」とあり。	
532	487	〔書〕					〔東郷〕 平八郎書		軸装	1			
533	495	〔書〕					教明翁書		軸装	1			
534	500	〔書〕					菱湖		軸装	1			
535	503	〔書〕					雪人		軸装	1	つと人や牛黄□□ 瓜は□け□美人や 同じ系図のいさ平氏		6 書
536	540	〔書〕					雪人		色紙	1	太平を さのひや 菊の国		
537	542	〔書〕					雪人		色紙	1	菊咲て 病に起つ □□□		
538	543	〔書画〕					雪人		色紙	1	梅に鶴 □手寒さ 知らぬ也		
539	544	〔書〕					雪人		色紙	1	古里や 別に春ある はゝの家		
540	545	〔書〕					雪人		軸装	1			
541	508	〔山水図〕	明治九年丙子十一月上 流	1876	1	1	東肥左筆石			1			
542	456	大日本名将鑑 最明寺時頼入道	明治十一年十月十九日	1878	10	19	□雪 芳□ 画工 月岡米次郎 出版 人 船津忠次郎			1			
543	188	海洋島沖海戦大將之圖	明治廿七年十月四日 印 刷 全月八日 出版	1894	10	4	東京日本橋區新石衛門町四番地 熊澤 喜太郎			1	錦絵		
544	453	英明武者鑑 西塔武藏坊弁慶	明治廿七年三月	1894			南齋年忠 印刷兼発行者 小森宗次郎			1	絵		
545	451	新版角力尽し	〔近代〕	1912			茅為			1	絵		
546	452	高貴ノ上覽石橋ノ図	〔近代〕	1912						1	絵		
547	455	壽永二年木曾義仲平将知度 頌 利通羅谷入合戦	〔近代〕	1912						2	絵 継ぎが外れている。		
548	457	東都 御殿山花見之圖	〔近代〕	1912			應雪豊國 画 地本問屋総州屋与兵衛 板			3	絵 継ぎが外れている。		7 絵画
549	458	東京名所銀座繁華之図	〔近代〕	1912			葛吉板			1	絵 継ぎが外れている。		
550	187	清國運送船沈没ノ圖	〔近代〕	1944						1	錦絵		
551	352	〔絵〕					十二姫玉簪			1			
552	409	〔俳画〕					守屋□□拝写			1			
553	450	〔漢詩と絵〕								1			
554	454	〔徳川家十六番神肖像圖〕					辻文板 ホリ米			2	絵 継ぎが外れている。		
555	459	〔俳画〕					其残			1	墨書		
556	460	〔富士山図〕					碧鳳			1	水墨画		
557	461	〔竹図〕					宣郷			1	墨書		
558	464	〔竹図〕					天然			1	墨書		
559	465	〔雀図〕					古丘煥			1	墨書・色つき		

目録番号	史料番号	文書名	年月日	西暦	月	日	差出人・作成者	受取人	形態	数量	内容	備考	分類
560	466	〔葡萄図〕								1		絵	
561	467	〔桜図〕					花□女子			1		絵	
562	483	〔梅と菊画〕					海城□字主			1	漢詩と水墨画。		
563	484	〔山水画〕					竹□□□			1			
564	488	〔俳画〕					丙辰仲秋 雪散叟		軸装	1			
565	489	〔梅図〕					565 489 〔梅図〕			1			
566	490	〔画像〕					原□経書			1	和歌と絵。		
567	491	〔燕図〕					源々講書			1	燕の絵と漢詩・俳句。		
568	492	〔和歌と葡萄図〕					鶴富老人			1	和歌と葡萄図。		
569	493	〔山水画〕					月便		軸装	1	経木に紙の裏打ち。		
570	494	〔竜図〕					源應學写		軸装	1			
571	496	〔俳画〕					漫々講書 八十八翁雪江		軸装	1			
572	497	〔画像〕					和富老人		軸装	1	漢詩と絵。		
573	498	〔山水図〕					辛卯第一月		軸装	1			
574	501	〔俳画〕					和尙画		軸装	1	梅図と俳句。		
575	502	〔画像〕					抱養		軸装	1	時鳥図と和歌。		
576	504	〔画像〕					柳雪筆		軸装	1			
577	505	〔燕と菖蒲図〕					春邦		軸装	1			
578	506	〔五月節句絵〕							絹本	1			
579	507	〔虎図〕					源應學		軸装	1			
580	509	〔虎図〕							軸装	1			
581	418	〔達磨図〕					鷺湖雪人写		絹本	1			
582	151	太閤秀吉公様御葬式之節御供人数行列 附り 御葬式二付諸事之写	丙寅八月〔昭和元年か〕	1926	8		信陽齋湖東 上原郷 虎口主 矢島信智 (写)		横帳	1		「文久元甲酉 (1861) 年十月十日」の写	歴史 収蔵
583	366	江都繪圖	寶曆十庚辰年月改	1760			筆傭 原應子感圖 彫工 岡本源次郎			1		江戸日本橋通一丁目 出雲守和泉掾藏板	
584	374	繁榮御江戸繪圖	安政四年丁巳改正	1857			東船書肆 日本橋通壹丁目 須原屋彦兵衛 同貳丁目 山城屋佐兵衛 浅草福井町 山崎屋清七 人形町 上州屋重威 芝神明前 岡田屋嘉七			1			
585	368	舟號日本澤圖 第一	明治六年第一月	1873	1		石川縣學校板 大屋櫻□著			1			
586	369	舟號日本澤圖 第二	明治六年第一月	1873	1		石川縣學校板 大屋櫻□著			1			
587	372	信濃明細全圖	明治十三年十月	1880			編輯人 丸山清俊 出版人 伊藤甲造 発兌人 若下伴五郎			1			
588	363	江都繪圖								1			
589	364	大坂御城繪圖								1			
590	365	大坂大繪圖								1			
591	367	明治改正 中村氏 大日本輿地全圖								1			
592	370	江戸御城繪圖								1			
593	371	〔日本地図〕					浪華 友晴松田圖 江戸書肆 元大工町 三河屋鉄五郎板			1		表紙欠。2枚に裂けている。	
594	373	〔江戸城図〕								1		「武蔵国豊島郡江戸ノ御城東京ト名カワルトキ春三日ノ間御城御ニワノハイケンイタサセソロ」とあり。	
595	541	〔京都絵図〕	〔江戸時代か〕							1			
596	H6-08	諏訪史料叢書 卷一〜十七	大正十四年十二月五日〜昭和七年八月二十日	1925					和 本・印刷	17		色刷り	10 図書

6 その他

目録 番号	史料 番号	文書名	年月日	西暦	月	日	差出人・作成者	受取人	形態	数量	内容	備考	分類
597	530	羽織							布(絹)	1		内側に「庄九郎」と墨書あり。	
598	531	胸当							布	1		家紋「六文銭」	1 装束
599	535	陣笠							木製漆塗り	1		家紋「六文銭」	
600	554	陣笠							木製漆塗	1		家紋「不明」	
601	536	泥障							草製	1		木箱入	
602	549	鍔柄							武器	1	長さ250cm	550の柄	
603	550	鍔先					[無銘]		武器	1	長さ40cm	549の鍔先。鞘あり。「銃砲刀剣類登録証」付	2 武器
604	551	火縄式鉄砲					江州国友住才次能當作(二百七十五)		武器	1	全長116.7cm・銃身長85.3cm・後継1.3cm	「銃砲刀剣類登録証」付属	
605	552	刀					[無銘]		武器	1		「銃砲刀剣類登録証」付属	
606	562	茶壺	[16世紀後半]							1			
607	538	大型蛤刃磨製石斧	[弥生時代]						石器	1		1/3で折れている・刃先	
608	539	大型蛤刃磨製石斧	[弥生時代]						石器	1		1/4で折れている・刃先	
609	546	黒曜石石器	[縄文時代]						石器	47	石鏃・石匙・石錐・剥片など	木箱の中にある	3 考古資料
610	547	頁岩石器							石器	2	石匙	木箱の中にある	
611	548	蠟石剥片か							石器	1		木箱の中にある	
612	449	双眼鏡					LEMAIRE FABI PARIS			1		ケース付	
613	448	カメラ					OKAKO(岡田光学精機)			1		純腹式カメラ。ケース付。	
614	524	箱	明治五壬申年九月廿四日 作之	1872	9	24	工 中河原村 波間周吉 持主 矢志麻宇じ		木製	1			
615	529	箱	明治十一年	1888			北安曇郡於池田村求之 矢高茂登		木製	1			
616	555	袱箱							木製	1		黒漆塗。菊・桐紋入。蓋あり。	4 容器
617	556	袱箱							木製	1		朱塗。蓋あり。	
618	557	袱箱							木製	1		蓋あり。	
619	558	袱箱							木製	1		蓋なし。	
620	559	網代箱							竹製	1		外面紙貼り、黒漆。	

市民研究員養成講座 平成 26 年度の取組

博物館活動に有機的に関わり、博物館を支え高める担い手を養成することを目的に開始した市民研究員養成講座は 1 期 3 年で計画している。平成 26 年度は、第 1 期の 2 年目にあたっている。この講座は座学中心ではなく、主に観察調査や実験製作等実践的な活動を通して学びを深める手法を取り入れている。途中からも参加ができるため参加者は増加し、昨年の 41 名から 50 名になった。昨年は市民研究員認定者が 17 名誕生したが、今年度は新たに 9 名が追加認定され、市民研究員認定者は 26 名になった。

活動は各グループの指導者に委ねている。概ね毎月 1 回以上の活動を行った。詳細については各グループの報告を参照されたい。

各分野の指導者は昨年通りだが、陸水グループに信州大学大学院博士課程の君島祥氏に加わってもらった。

分 野	指 導 者	
植物	名取 陽	植物研究家
	岩波 均	諏訪教育会植物部会
	白鳥 保美	諏訪教育会植物部会
	武居 三男	諏訪教育会植物部会
陸水 (ミジンコ)	花里 孝幸	信州大学教授
	君島 祥	信州大学大学院博士課程
菌類 (キノコ)	小山 明人	菌類懇話会事務局長
鳥類	両角 英晴	日本野鳥の会諏訪支部
実験工作	木村 正弘	諏訪東京理科大学教授

上記指導者が一堂に会した指導者会を、1 月 16 日に開催し、全体の進捗、今後の予定の検討確認、市民研究員認定予定者の審査等を行った。

さらに博物館に関わる市民の、関わり方についていろいろ考えてもらえるように講演会を 3 回以下のように開催した。

- ・「市民参加 平塚市博物館の例」 4 月 26 日 (日) 平塚市博物館館長 澤村泰彦
- ・「つなぐ (ものをつなぐ 人をつなぐ)」 5 月 25 日 (日) 八ヶ岳環境教育企画 岡野勇二
- ・「諏訪湖の生態系」 10 月 5 日 (日) 信州大学大学院博士課程 君島 祥

この 3 回の講演会を受講してレポートを提出することと、所属するグループの活動に 7 回以上参加することが市民研究員認定基準になっている。認定者には第 1 期の活動での指導者のサポート、博物館事業への協力、また、活動内容について提案していただき、提案された取組を実施する時には推進役になってもらうことにしている。

植物グループ活動報告

指導者 岩波均 *** 白鳥保美 *** 武居三男 *** 名取陽 ****

植物グループでは、26年度の目標として、昨年に引き続き、八ヶ岳西麓を中心とした諏訪地方の植物について、分類・植生・生態を中心にして、地域の植物誌の研究の基礎となる特徴的な場所を選定して、生育期に毎月1度をめどに観察研究会を開き、観察、記録を実施した。それを基に、休眠期には講演会を開き研究を進展させた。

第1回 5月10日(日) 茅野市市民の森・吉田山

スマレを中心とした、春の植物観察調査 指導者 武居三男 参加者 14名

遊歩道に沿って、スマレ類を中心に分布調査を行った。

駐車場～頂上広場

タチツボスマレ、アカネスミレ、アケボノスマレ、サクラスマレ、ニョイスミレ

ヒゴスマレ、ニオイタチツボスマレ、マルバスマレ、スマレ

頂上広場

タチツボスマレ、ヒナスミレ、アケボノスマレ、ヒカゲスマレ

頂上広場～池

タチツボスマレ、アケボノスマレ、アカネスミレ、サクラスマレ、エゾアオイスミレ(葉のみ)

池～水車小屋

タチツボスマレ、アケボノスマレ、アカネスミレ、サクラスマレ、ニオイタチツボスマレ、

マルバスマレ

全体で12種のスマレ類が確認できた。頂上広場の草むらにヒメハギ(ヒメハギ科)やカナビキノウ(ビャクダン科)が見られた。

第2回 6月7日(土) 諏訪大社前宮～杖突峠旧杖突街道沿い

植物観察・標本採集実習・生態的調査の基本演習 指導者 岩波均 参加者 9名

雨模様の天候であったが、沿道の植物観察を行いながら、標本作成のための植物採集を行った。信州大学名誉教授、沖野外輝夫先生に生態学的調査法の指導を受けた。

珍しい植物は見られず採集はできなかったが、標本づくりや、調査の演習を通して図鑑の用語と、実際の形態について学んだ。

第3回 6月28日(土) 釜無川溪谷、大武川諏訪神社境内

石灰岩地域の植物観察調査 指導者 白鳥保美 参加者 22名

梅雨空の下、釜無溪谷の植物観察を行った。本谷までには、フサザクラの果実や、白い花を咲かせたアワブキやオオバアサガラ、ハクウンボクが見られた。

石灰岩斜面には、フジアザミの群落、本谷の平地では、ニシキウツギ、イタヤカエデ、ミヤマザクラ、シナノキ、ダケカンバ、メグスリノキ、ハウチワカエデ、サワシバなどの樹木や、シナノルリトラノオ、シナノナデシコ、トダイハハコ等石灰岩地に特有な草本が見られた。本谷奥では、クル

マバムグラ、クロクモソウ、コミヤマカタバミ、ツバメオモト、マルバコンロンソウ、クリンユキフデ、キケンショウマ、が見られ、源流では、ダケカンバ、ミズメなどの樹木が見られた。本谷の林縁では、絶滅危惧種、ツルガシワを発見することができた。大武川諏訪神社では、トチノキ、アサダ、ヤマブキソウ、カタクリ、ワニグチソウや、石灰岩地ではクモノスシダ、フジシダ、ツルデンド、イワヒバ、トダイハハコなどを見ることができた。

第4回 7月19日(土) 霧ヶ峰高原

高層湿原植物相の観察 指導者 岩波均ほか 参加者 15名(一般約80名)

諏訪教育会と共催で、教育会の先生がたの指導の下、霧ヶ峰の自然や植物について、高層湿原の遷移、気象、地質、陸水、鳥類、諏訪大社御射山神社などを観察して、霧ヶ峰高原の生態系について広く学ぶことが出来た。

第5回 9月27日(土) 諏訪大社奥宮神社林～御柱山

亜高山針葉樹林の植生および生態観察調査 指導者 名取陽 参加者 13名

御小屋尾根標高1900m付近の亜高山針葉樹林の遷移を考察した。昨年実施したウラジロモミ、シラビソ等の常緑針葉樹(陰樹)と、ダケカンバ、ミネザクラ等の落葉広葉樹(陽樹)の年輪測定結果を参考にして、成長競争に伴う森林生態系成立過程を推測した。午後は、ホテイラン、クモキリソウ、ギンリョウソウ、ヒトツバイチヤクソウなどの、ラン科植物や寄生植物と菌類との共生関係に注目して、御柱林生態系の多様性について観察と考察を行った。

第6回 10月25日(土) 茅野市民の森、吉田山

秋の植物観察と植物標本採集 指導者 岩波均 参加者 11名

博物館に集合し、車に分乗して吉田山に向かった。素晴らしい天候に恵まれ、秋に目立つ植物の生態観察と植物採集を行った。午後、博物館において採集した植物の、押し葉標本作りの演習を行った。植物図鑑での種名の同定を行ったが、その困難さも経験し、同定の大変さを学ぶことが出来た。

第7回 11月22日(土) 博物館研究室

進化の観点で植物形態について学ぶ 講演者 岩波均 参加者 一般も含め多数

「植物の形態は全て葉の変形とみなすことができる」という観点で講演が行われた。一般市民の方も含めておおくの参加者があり、興味ある内容に多数の質問も出て、予定時間を延長するほどの盛会であった。

第8回 12月6日(土) 博物館講堂

熱帯アジア、乾燥アフリカの植生から八ヶ岳の植物生態について 講演者 名取陽

ボルネオ島および西ニューギニアの、熱帯アジアにおける植物の高温多湿環境への生態適応。南アフリカの砂漠における、乾燥への生態適応の映像を見て、八ヶ岳の高山植物適応の特徴を考える講演が行われた。厳しい環境条件の下で、植物を基本として、人間もふくめて、いかに多様で安定した生態系が成立しているか、映像による興味深い内容であった。 参加者 一般も含め25名

第9回 2015年2月14日(土) 博物館講堂

諏訪の植物相 講演者 白鳥保美

参加者 一般も含め20名。

1 地形や地質から見た諏訪の植物帯と相観植生

2 いろいろな場所から見る諏訪の植物

・杖突峠、塩尻峠、蓼科～八ヶ岳、諏訪湖、霧ヶ峰湿原、入笠～釜無の植物

3 諏訪に見られる植生の特徴

・諏訪湖、集落、里山、川原、湿原、草原、樹叢、亜高山帯、高山帯の植物、縞枯れ現象、暖地植物、帰化植物、多留姫の滝周辺の花暦などの特徴について。

それぞれの項目について、身近な地域の植生を中心にした興味深い講演がなされた。

以上、9回の観察会と講演会で、諏訪地域の植物について見識を深め、研究の基礎および方針を培った。

年度末の3月に行われる今年度の活動展覧会においては、各人のスペースを設けて、それぞれの研究成果を発表した。写真と植物標本を基に、貴重な観察記録研究成果が発表された。

次平成27年度は、研究員制度第1期の3年終了の区切りをむかえる。今年度までの基礎研究をふまえて、地域の植物研究のさらなる充実が期待される。

博物館研究員制度 植物班員名簿

大塚光子 大塚敏子 桑垣文子 井村悦子 上原妙子 小山京子 宮沢弘宣 小林 豊 奥原 聡
牛山恵一 野崎順子 池澤正秀 田中宏和 矢島三喜子 上原裕雄 北沢俊弘 両角晃一
八木橋眞知子 小林智子 斉藤彰夫 小林喜久一 小林美里 鈴木美代子 若宮稔美

陸水グループ活動報告

花里 孝幸**** 君島 祥*****

1 今年度の活動

陸水グループ2年目の活動は、当初信州大学で行っている諏訪湖のミジンコ調査に便乗して学習を深めることを検討したが、まだ大学や研究機関で取り扱われていない水田のミジンコを調査し、水田に水を張ってから水を抜くまでの間、ミジンコから見た水中の生態解明を市民研究員の手で進めてもらうことにした。指導は信州大学大学院博士課程の花里研究室、君島 祥氏がすることにした。

採集は水田に水を張る5月から水を抜く9月初めまで毎週1回、午前10時から午後2時までの間に定量的に行った。採集者は市民研究員の当番制とし、2人ひと組となって行った。採集場所は市民研究員の小池春夫氏所有の水田AとB、2か所を使わせてもらうことにした。採集はAの水田で定点1, 2、Bの水田で定点1, 2、合計4地点を定めて行った。採集したサンプルはシュガーホルマリン入りの保存瓶に保存し、1か月に1回、市民研究員が信州大学山岳科学総合研究所の設備を使い同定と種の数を記録した。その結果、今まであまり知られていなかった水田の水の中の様子が明らかになった。別稿にその調査報告を掲載しているので参考にしていきたい。

ただ、この1年の結果だけでは確かなことは言えないので、できれば今後この活動を継続してデータの蓄積をし、水田の生態系をさらに明らかにすることが望ましい。

水田調査のまとめができた11月以降は、研究所で昨年同様に生態系についての学習会を開き、学習を深めた。2月、3月は活動展の準備及びイベントデーでワークショップを行った。

2 活動の記録

<採集日>

5月20日(火)、5月27日(火)、6月3日(火)、6月10日(火)、6月18日(水)、6月25日(水)、7月1日(火)、7月8日(火)、7月15日(火)、7月23日(火)、7月29日(火)、8月5日(火)、8月13日(水)、8月20日(水)、8月26日(火)、9月2日(火)

<同定、集計日>

6月18日(水)、7月23日(水)、8月26日(火)、9月24日(水)、10月7日(火)

<学習日、その他>

11月18日(火)、12月16日(火)、1月20日(火)、2月26日(木)、3月22日(日)

3 陸水グループ参加者 6名

飯田 美智子	鵜飼 恭子	桑垣 寛
小池 春夫	大塚 光子	水沼 昇

茅野市内の水田における動物プランクトン調査

君 島 祥*****

1、はじめに

動物プランクトンとは大きさが0.1mm～3.0mm程度の小さな生き物たちで、日本には400種類以上の動物プランクトンが生息している。動物プランクトンの多くは、遊泳能力が低いために河川では生息することができず、湖沼やダムなどの流れがあまりない場所で見ることができる。

動物プランクトンの多くは草食性で、植物プランクトンを餌としている。植物プランクトンは0.001mm～0.040mm程度の大きさと動物プランクトンよりも小型であるが、諏訪湖のように栄養が豊富な環境では極めて高密度となり、水のにごりの原因となる場合がある。このような場合に、動物プランクトンによる植物プランクトンの摂食を人為的に促すことで、植物プランクトンが減少して湖沼の水質を改善することができる。長野県の白樺湖では、動物プランクトンの一種であるカプトミジンコを増やすことで水質の改善に成功している。また、動物プランクトンはワカサギやモツゴなどの小型の魚にとって重要な餌となっている。このように、動物プランクトンは湖の水質や生態系に大きな影響を与え、湖の環境を考える上でとても重要な生物であるため、多くの研究者が湖沼のプランクトンの研究を行っている。

一方、水田にもプランクトンが生息していることは知られているが、湖沼のプランクトンに比べてあまり研究がなされていない。近年、生物多様性が重視されるようになり、水田の生物の多様性にも注目されるようになってきた。しかし、プランクトンについては関心が低く、報告はあまりない。そこで、本調査では、身近な水田の環境や生物の多様性について理解を深めるため、水田に生息するプランクトンを調べた。

2、調査方法

調査期間は2014年5月27日から9月2日で、週に1回の頻度で行った。調査地点は茅野市内の隣接する二つの水田(A地点とB地点)で、それぞれ2カ所で行った。動物プランクトンを採集するために、泥を巻き上げないように小型の石油ポンプを用いて水田の水を2L採水し、小型のプランクトンネットですり過した。その後、シュガーホルマリンを用いて固定し、光学顕微鏡を用いて種の同定・計数を行った。

3、結果

図1より、地点Aと地点Bともに、6月と8月には動物プランクトンの密度が高く、7月には動物プランクトンの密度が低かった。

4、考察

水田のミジンコの密度は6月に高く、7月には低くなった。この要因は以下の2つの可能性が考えられる。第一に、稲が生長して日光を遮ったため、ミジンコのエサである植物プランクトンが減少し、動物プランクトンが餌不足に陥った。植物プランクトンは陸上の植物と同様に太陽の光を利用して光合成を行っている。そのため、生長した稲によって光がさえぎられて水中に光が届かなくなると、植

物プランクトンは増えることができなくなる。その結果、餌となる植物プランクトンが減少し、動物プランクトンの減少が引き起こされた可能性がある。湖沼においても、水草の増加によって水中に届く光の量が減少し、植物プランクトンの量が減少する場合がある。もう一つの可能性は、動物プランクトンを捕食する天敵の増加が考えられる。オタマジャクシやマツモムシなどの水生生物は動物プランクトンを捕食することが知られている。7月の動物プランクトンの減少はこのような天敵が水田に現れていた可能性を示唆する。

今回の調査によって、水田において多様な動物プランクトンが生息していることが確認され、また、時期によって大きく密度が変化することがわかった。近年、生物多様性が重視されているが、水田のプランクトンについてはあまりわかっていない。動物プランクトンの多くは殺虫剤などの農薬に弱く、また、動物プランクトンの餌となる植物プランクトンは除草剤に弱い。農薬の使用によって水田の多様性が大きく損なわれる可能性があり、今後、水田のプランクトンに対する農薬の影響を調査・研究する必要があると思われる。

地点 A1 のプランクトン密度 (個体数/L)・・・表 1

	5/27	6/3	6/10	6/18	6/25	7/1	7/8	7/15	7/29	8/5	8/13	8/20	8/26	9/2
アオムキミジンコ	10	0	20	60	0	0	0	0	0	5	5	5	0	0
オカメミジンコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オナガミジンコ	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
カイミジンコ	10	155	90	20	0	10	5	5	0	0	20	0	0	0
カプトミジンコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ケブカミジンコ	0	15	0	30	0	0	0	7.5	0	0	50	0	0	5
ケンミジンコ	0	15	35	0	0	5	0	2.5	0	0	0	5	0	5
タマミジンコ	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0
ニセゾウミジンコ	0	0	0	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ゾウミジンコモドキ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
マルミジンコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	5	5	40
ワムシ	20	25	0	0	15	0	0	0	0	10	10	0	0	0
ノープリウス	0	0	30	0	0	10	10	7.5	5	0	0	0	0	0
コバボディド	0	0	20	10	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0

地点 A2 のプランクトン密度 (個体数/L)・・・表 2

	5/27	6/3	6/10	6/18	6/25	7/1	7/8	7/15	7/29	8/5	8/13	8/20	8/26	9/2
アオムキミジンコ	10	0	20	60	0	0	0	0	0	5	5	5	0	0
オカメミジンコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オナガミジンコ	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
カイミジンコ	10	155	90	20	0	10	5	5	0	0	20	0	0	0
カプトミジンコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ケブカミジンコ	0	15	0	30	0	0	0	7.5	0	0	50	0	0	5
ケンミジンコ	0	15	35	0	0	5	0	2.5	0	0	0	5	0	5
タマミジンコ	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0
ニセゾウミジンコ	0	0	0	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ゾウミジンコモドキ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
マルミジンコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	5	5	40
ワムシ	20	25	0	0	15	0	0	0	0	10	10	0	0	0
ノープリウス	0	0	30	0	0	10	10	7.5	5	0	0	0	0	0
コバボディド	0	0	20	10	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0

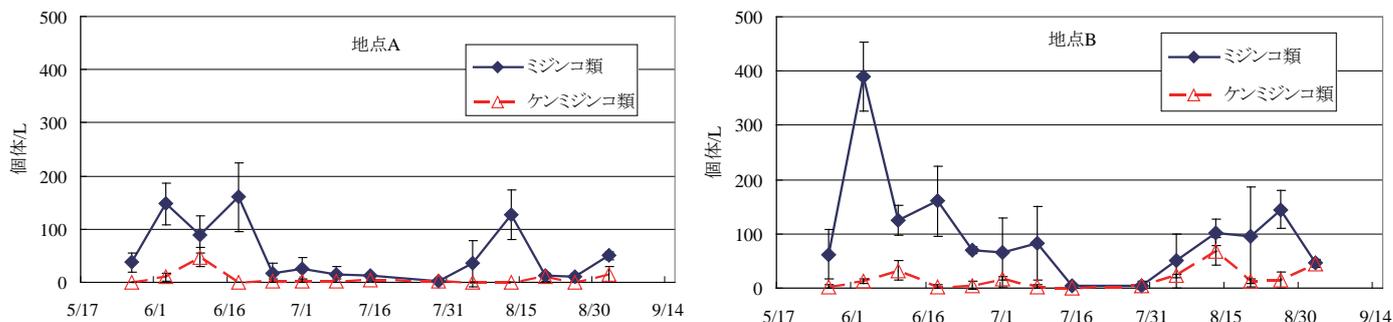
地点 B1 のプランクトン密度 (個体数 /L)・・・表 3

	5/27	6/3	6/10	6/18	6/25	7/1	7/8	7/15	7/29	8/5	8/13	8/20	8/26	9/2
アオムキミジンコ	0	0	35	25	5	0	105	0	5	15	15	0	0	10
オカメミジンコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オナガミジンコ	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0
カイミジンコ	25	10	30	70	10	15	20	5	0	60	70	10	75	5
カプトミジンコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ケブカミジンコ	0	50	20	15	10	0	5	0	0	10	25	0	5	10
ケンミジンコ	0	10	20	0	0	15	5	0	0	20	85	10	25	50
タマミジンコ	5	375	20	80	40	95	0	0	0	0	5	0	0	0
ニセゾウミジンコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ゾウミジンコモドキ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
マルミジンコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	90	20
ワムシ	35	5	0	0	5	0	0	0	0	5	35	0	5	0
ノープリウス	0	0	50	5	5	170	70	20	5	0	70	0	0	0
コペポディド	0	0	40	15	0	25	160	25	0	10	0	5	0	0

地点 B2 のプランクトン密度 (個体数 /L)・・・表 4

	5/27	6/3	6/10	6/18	6/25	7/1	7/8	7/15	7/29	8/5	8/13	8/20	8/26	9/2
アオムキミジンコ	0	0	20	0	5	5	30	0	0	0	40	10	0	10
オカメミジンコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オナガミジンコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
カイミジンコ	75	90	45	30	15	0	0	5	5	15	10	20	5	5
カプトミジンコ	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0
ケブカミジンコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	10	20	0
ケンミジンコ	5	15	45	5	10	20	0	0	10	25	50	15	5	40
タマミジンコ	20	255	80	85	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ニセゾウミジンコ	0	0	0	0	5	10	0	0	0	0	0	0	0	0
ゾウミジンコモドキ	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0
マルミジンコ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	120	95	35
ワムシ	15	20	0	0	0	5	0	5	0	10	30	0	5	0
ノープリウス	0	0	90	0	20	535	20	150	10	10	70	0	0	0
コペポディド	0	0	0	5	0	10	65	22.5	10	20	0	0	0	0

地点 A および地点 B におけるミジンコ類とケンミジンコ類の密度の変動
(平均値±標準偏差)・・・図 1



きのこグループ活動報告

小山 明人*****

1 はじめに

きのこグループの目的は諏訪地方のキノコ相の解明と、併せて食毒だけではない科学的なキノコの理解と普及を目的としている。グループは発足して2年となり会員は実質11名で活動を行った。

諏訪地方のキノコ相調査は明治末期の川村清一博士を始めとして、その後、大谷吉雄博士、吹春俊光博士の調査により13科16属30種となっている。さらに、日本菌学会会報「Mycoscience, 1-14, 2015」において種山裕一氏等により諏訪市上諏訪唐沢山のニガイグチモドキを記録したことから13科17属31種となった。

2 平成26年度の活動

昨年度同様、午前は野外での観察、午後は博物館で顕微鏡的特徴を確認するため操作実習と各細胞の特徴などを観察した。野外観察は吉田山を3回実施し季節ごとの変化を理解した。9月はキノコの発生が最盛期を迎えることから亜高山帯において1日観察、翌日博物館で同定作業を行った。

図鑑の利用や顕微鏡の基本操作はだいぶ慣れてきた。当初は数種の記録を作成する予定だったが基本の習得に時間がかかったためできなかった。

3 活動の詳細

第1回 4月19日 富士見町 敬冠院

諏訪地方では最も標高の低い場所(720m)でありツバキがある。花がらを栄養とするチャワソタケの一種ツバキキンカクチャワソタケを観察し採集した。午後は指導者宅で実習を行った。

第2回 5月17日 茅野市 吉田山

池周辺を重点的に観察した。落枝に発生するシュタケやクヌギタケ属など小型の腐生菌を数種観察した。種までの同定には至らないものが多かった。

第3回 6月21日 茅野市 尖石青少年の森

一般的に見られるキノコの発生が始まった。キツネタケ属やチチタケ属、サンコタケやチャワソタケの一種、タルゼッタ カティヌスも観察した。午後は顕微鏡観察を中心に行ったが、2年目ということもあり胞子の観察には慣れてきた。シスチジアなどはかなり薄い切片づくりが必要なため今後期待したい。

第4回 7月19日 茅野市 吉田山

夏のキノコシーズンとなりテングタケ類やイグチ類が多かった。指導者の都合により午前だけの活動だった。

第5回 8月24日 茅野市 尖石青少年の森 市民観察会

第6回 9月6日 茅野市 桜平～夏沢鉱泉

キノコの最盛期であり多くのキノコを採集した。

第7回 9月7日 茅野市総合博物館

昨日採集のキノコの同定を行った。結果としては20種だった。

第8回 10月12日 茅野市総合博物館

恒例のキノコ展示と市民による持ち込みキノコの同定会。30種程度の展示と7,8人の来場者。

第9回 11月9日 茅野市 吉田山

吉田山山頂から池まで。20種程度観察。午後は4種類について孢子や黄金シスチジア、異形担

子器、ホコリタケの弾糸を顕微鏡観察。

第10回 12月20日 茅野市総合博物館

春からのまとめとして各人が1人5-10分の時間の中で発表。定例の活動もさることながら個人の興味分野の話がユニークで面白かった。活発な質問もあり9時から初めて午後までかかった。

第11回 1月17日 茅野市総合博物館

午前は記録の具体的方法、午後は3月の活動展、4月の国立科学博物館への訪問について話し合いをした。

第12回 2月21日 茅野市総合博物館

午前はキノコの肉眼的記録の練習として生のシイタケを使い記録した。また、図鑑の記述と照合して記載方法を確認した。午後は活動展に向けての打ち合わせと印刷物の作成。

第13回 3月15日 茅野市総合博物館

午前は孢子や担子器の線画作成練習。午後はかさ表皮構造の線画作成練習。

第14回 3月22日 茅野市総合博物館

活動展発表展 展示のほかに顕微鏡観察、きのこクイズを実施した。

4 来年度の活動

市民研究員養成講座1期3年の最終年度にあたりまとめの年度となることから以下を計画した。

- ① 諏訪地方のキノコ相解明の具体的方法として国立科学博物館保坂博士と相談の上、カラマツ林内のキノコを調査する。調査にあたっては講義など協力を仰ぐ。
- ② 調査は野外での生態等の写真撮影、採集、マクロ・ミクロの記録、標本作成を行う。
- ③ カラマツ林以外でも適当な標本が得られる場合は採集、記録する。
- ④ 記録様式は神奈川県立生命の星・地球博物館の入生田菌類資料に準拠する。
- ⑤ 展示に適当な標本は大阪市立自然史博物館に引き続き協力を仰ぎ真空凍結乾燥標本とする。
- ⑥ 標本は原則茅野市八ヶ岳総合博物館に収蔵する。
- ⑦ 市民研究員認定者を中心に諏訪地方の菌類活動に協力する。

謝 辞

第12回定例会においてキノコの外観を記録する練習として株式会社北研から成長段階の異なる生シイタケをご提供いただきました。ありがとうございました。

きのこグループ

市川 浩久 井村 悦子 上原 裕雄 上原 妙子
牛山 雄二 金子 修平 遠山 俊祐 中島 年
藤崎 弘子 藤森 政明 水沼 昇 ※小山 明人



野鳥グループ活動報告

両角英晴*****

2年目活動は前年のポイントセンサスの場所を替え同様に、ラインセンサスを2回取入れ調査、探鳥会など一年間活動できました。

調査	5月6日、6月7日、11月24日、1月10日	
	ポイントセンサス 尖石史跡公園、竜神池周辺	4回
	5月28日～6月8日 オオヨシキリ生息調査	市内全域
	6月1日 ラインセンサス、ミニ観察会	市民の森吉田山
	7月21日 ラインセンサス、ミニ観察会	大河原峠、双子池
	9月23日 タカの渡り確認調査	北八ヶ岳茶臼山山頂
座学	10月26日 「館内資料で知ろう！茅野市の自然、野鳥」	
	館内展示（ジオラマ）と収蔵庫の野鳥剥製での学習会	
探鳥会	4月13日 運動公園	市街地公園春の探鳥会
	5月3日 尖石縄文公園、竜神池周辺	さえずりを聴こう探鳥会
	12月22日 神長官守矢史料館周辺	里山、農耕地で冬の探鳥会
	2月2日 諏訪湖、上川周辺	水辺の冬の探鳥会
観察会	8月1日 ツバメのねぐら観察会	上川新六斗橋下流右岸土手

◎ 探鳥会

探鳥会を年間で4回計画し、地元の季節、環境、場所の違いによる野鳥の生態をポイントに行いました。この探鳥会は15年以上も続けて行っています。市民の皆さんに身近な環境の中で、野鳥を見て知って頂きたいと開催していますが、市民研究員の方もこの事業に携わる事が出来れば良いと思います。

・探鳥会 運動公園の渡り前の冬鳥と留鳥、夏鳥

4月13日には市街地に近い運動公園で観察しました。移動を前にした冬鳥では、オシドリ、ツグミ、シメ、カシラダカが、渡って来たばかりの夏鳥はツバメ、コムドリが居ました。多くの留鳥も繁殖準備を始めていました。

今年の29種より少ない23種が確認出来ました。

・探鳥会 尖石縄文考古館・竜神池周辺の夏鳥

5月3日は早朝より尖石縄文考古館の駐車場からスタートして青少年自然の森への林縁部を進み、史跡公園の草地へ廻りました、クロツグミ、サンショウクイ、イカルなどがさえずり姿も良く見せてくれました、エゾムシクイの声も聞こえました。

堰沿いを竜神池へ進み池東側の木道散策路内に、そこではキビタキ、オオルリ、コサメビタキ、ノジコ、アオジなどが居て全部では36種の姿や声が確認できました。スコープでは飾り羽のダイサギなどが確認出来た鳥も数多く、皆さんに喜んで頂きました。

・探鳥会 神長官守矢史料館周辺の冬鳥

12月21日は神長官守矢史料館周辺の農耕地、人家廻り、林縁部で寒い冬を過ごす冬鳥を観察しました。

前日の雪により足元の滑りやすい中での探鳥会でしたが、綺麗に晴れて最高の鳥見日和に成ってくれました。冬をこの地で過ごすシロハラ、ツグミ・カシラダカ・ジョウビタキ・ベニマシコ・シメなどが昨年より多く観察できました。柿の実に多くのツグミや20羽のオナガの群れなど、参加者に満足して頂きました。

今年の23種より減少し20種が確認できました。

・探鳥会 上川、諏訪湖周辺の冬の水鳥たち

年が替った2月1日 岡谷市横河川河口へ集合し水辺の鳥観察を行いました。

横河川河口ではコハクチョウやカモを観察しました。昨年より少ないコハクチョウの中に1羽のアメリカコハクチョウ1羽が居り探してもらいました。

カモもヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カワアイサの種と雌雄の識別を学び観察しました。カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリやカワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバンなど多くの水辺の冬鳥がいました。

上川広瀬橋上流にはコハクチョウやカモ類が泳ぎ、近くまで寄ってきて姿を見せてくれました。アメリカヒドリも1羽居ました。

昨年より2種少ない26種が確認できました。

添付別表 「探鳥会出现鳥リスト」

◎ スポットセンサス

環境省自然環境局生物多様性センター・(財)日本野鳥の会・NPO法人バードリサーチ のモニタリングサイト 1000 鳥類調査の方法を利用して、尖石縄文考古館周辺縄文公園から竜神池周辺の鳥類生息調査を行いました。 添付別表 「2014 センサス集計」

鳥の種と数のしらべかた

尖石縄文公園内復元住居前から滝の湯堰沿い、竜神池まで1kmのコースを決め、5つの定点(A~Eをおよそ250mおき)を設定する。

・1日だけの調査では、渡りの時期の違いによって記録できない種が出てくるため、調査を2日に分けて行う。

繁殖期・・・さえずりがさかんな繁殖の前期に1日最盛期1日の計2日

越冬期・・・冬鳥が揃ってから1日、2週間以上経ってから1日の計2日

・1日あたり各定点2回調査する。

・AよりEまで各定点で10分間の調査をします。E地点終了後、15分間隔をあけて再びE地点から調査する。

・2分ごとに、確認した種、記録方法、個体数を記録します。定点から半径50mの範囲とそれ以外にわけて記録する。

以上の方法にて5月6日、6月7日、11月24日、1月10日の4回実施しました。

確認出来た野鳥は51種+2種でした、夏鳥はホトトギス、カッコウ、アマツバメ、サンショウクイ、イワツバメ、ツバメ、センダイムシクイ、オオヨシキリ、コムクドリ、クロツグミ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、ニジコなど14種、冬鳥はマガモ、コガモ、オオバン、ツグミ、ジョウビタキ、

マヒワ、ベニマシコ、カシラダカの8種でした。多くの確認ができたのはマガモ、カルガモ、アカゲラ、カケス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、コムクドリ、キビタキ、カワラヒワ、マヒワ、イカル、アオジが4回合計で20羽以上の結果でした。又5年後にはどう変化するのか？継続が必要です。

添付別表 「鳥の種と数の調査記録用紙」

◎ ラインセンサス・ミニ観察会

6月1日 茅野市民の森吉田山で早朝から、2回センサス調査を行いました。

7月21日 大河原峠～双子山～双子池をめぐるコースでセンサス調査を行いました。

◎ 観察会開催

8月1日 ツバメのねぐら観察会を開催しました。

雲行きが不安の中、集合場所から観察予定地に移動して、観察を始めました。大きなムクドリの群れが幾つも上空を通過して行ったり、ゴイサギが鳴きながら何羽も飛んで行くのが見えました。6時45分を過ぎる頃から、ツバメが数十羽の群れで上空や土手沿いのヨシの上を飛び始めました。しかし遠く岡谷の方から雨がこちらに向かって来るのが見え、徐々にポツポツと夕立になってしまいました。雷雨の為と、事前に確認した所から、ねぐらが変わった為に前年見たような、乱舞は見えず残念でしたが、ツバメにとって必要な環境を確認できました。

9月23日 北八ヶ岳茶臼山でタカの渡り調査を市民研究員と一般市民で行いました。

麦草峠より調査地点の茶臼山山頂まで針葉樹林帯をミニ登山、5時間ほど観察しました。

鳥の種と数の調査 記録用紙

集計

調査コース名：尖石縄文考古館周辺・竜神池

調査者 市民研究員野鳥グループ

調査日時：	2014・5・6		2014・6・7		2014・11・24		2015・1・10		年間総合計	
6時より9時、①～④	①・②回目		③・④回目		⑤・⑥回目		⑦・⑧回目			
8時30分より11時30分	総合計		総合計		総合計		総合計			
種名	MAX	総合計	MAX	総合計	MAX	総合計	MAX	総合計	MAX合計	総合計
マガモ	6	20	3	15	34	170			43	205
カルガモ	17	49	9	30	12	60			38	139
コガモ	2	10			17	85			19	95
カイツブリ	3	9	1	3					4	12
キジバト	5	14	3	8					8	22
アオサギ	5	5							5	5
オオバン					2	8			2	8
ホトトギス			1	1					1	1
カッコウ			6	16					6	16
アマツバメ			3	3					3	3
トビ	1	1							1	1
コゲラ	6	8	3	5	1	1			10	14
アカゲラ	8	19	4	4	2	3	11	16	25	42
アオゲラ	9	19	1	1			1	3	11	23
サンショウクイ	9	15	7	10					16	25
モズ							1	5	1	5
カケス					6	10	14	20	20	30
ハシボソガラス	9	25							9	25
ハシブトガラス	5	7	1	1	2	7			8	15
ヤマガラス					1	4	1	1	2	5
ヒガラ							2	2	2	2
シジュウカラ	6	9	6	14	4	7	11	11	27	41
イワツバメ			4	4					4	4
ツバメ			3	5					3	5
ヒヨドリ	14	33	12	19	2	2	3	6	31	60
ウグイス	12	40	8	22					20	62
エナガ	1	5			3	3	15	62	19	70

調査日時： 6時より9時、①～④ 8時30分より11時30分	2014・5・6		2014・6・7		2014・11・24		2015・1・10		年間総合計	
	MAX	総合計	MAX	総合計	MAX	総合計	MAX	総合計	MAX合計	総合計
センダイムシクイ	1	1							1	1
メジロ	8	22	3	6					11	28
オオヨシキリ			1	5					1	5
ゴジュウカラ	4	5	1	2	2	3	4	7	11	17
コムクドリ	22	48	4	7					26	55
クロツグミ	7	11	4	5					11	16
アカハラ	2	6	2	2					4	8
ツグミ					1	1			1	1
ジョウビタキ					1	2			1	2
コサメビタキ	3	3							3	3
キビタキ	7	13	13	40					20	53
オオルリ	1	3							1	3
スズメ	4	12			1	1			5	13
キセキレイ	2	4	5	16	1	1			8	21
セグロセキレイ	3	3			3	5	3	3	9	11
カワラヒワ	19	59	10	26	2	5			31	90
マヒワ					10	25	20	20	30	45
ベニマシコ					8	14			8	14
ウソ					6	6			6	6
イカル	15	33	5	9	4	4			24	46
ホオジロ	6	14	1	5					7	19
カシラダカ					3	4	4	4	7	8
ノジコ	1	2	2	6					3	8
アオジ	13	49	8	28					21	77
合計									588	1485

ヒヨドリ 50<					3	3			3	3
ツグミ 50<					8	29			8	29
ジョウビタキ 50<					1	2			1	2
セグロセキレイ 50<					1	1			1	1
小計									13	35
オオバン 移動中					2				2	0
コゲラ 移動中							2		2	0
アオゲラ 移動中			4						4	0
ヤマシギ 移動中							1	1	1	0
ヒガラ 移動中					1				1	0
シジュウカラ移動中					5				5	0
エナガ 移動中					6				6	0
ミソザサイ 移動中							1		1	0
マヒワ 移動中					5				5	0
ベニマシコ 移動中							1		1	0
ホオジロ 移動中							1		1	0
小計									29	

2014年 八ヶ岳総合博物館 探鳥会出现鳥リスト

場所	茅野市 運動公園	茅野市 尖石・竜神池	茅野市民の森 吉田山	茅野市、佐久市、佐久穂町 大河原峠、双子山、双子池	茅野市 神長官守矢史料館	茅野市 上川岡谷市諏訪湖	確認箇所計
月	4月	5月	6月	7月	12月	2015年1月	
日	13日	3日	1日	21日	21日	2日	
鳥名							
キジ	◎						1
コハクチョウ						◎	1
アメリカコハクチョウ						◎	1
オシドリ	◎						1
ヒドリガモ						◎	1
マガモ	◎	◎				◎	3
カルガモ		◎				◎	2
オナガガモ						◎	1

場 所	茅野市 公園	運動 茅野市 尖石・竜神池	茅野市民の森 吉田山	茅野市、佐久市、 佐久穂町 大河原峠、双子山、 双子池	茅野市 神長官守矢史料館	茅野市 上川 岡谷市諏訪湖	確 認 箇 所 計
月	4月	5月	6月	7月	12月	2015年1月	
日	13日	3日	1日	21日	21日	2日	
ホシハジロ						○	1
キンクロハジロ						○	1
ミコアイサ						○	1
カワアイサ						○	1
カイツブリ		○				○	2
カンムリカイツブリ						○	1
ハジロカイツブリ						○	1
キジバト		○	○	○	○	○	5
アオバト			○				1
カワウ						○	1
アオサギ	○	○				○	3
ダイサギ		○				○	2
オオバン						○	1
ホトトギス			○				1
ツツドリ				○			1
トビ		○					1
ノスリ			○				1
フクロウ			○				1
コゲラ	○	○	○	○	○		5
アカゲラ		○	○		○		3
アオゲラ		○					1
サンショウクイ		○	○				2
モズ		○	○		○		3
カケス		○					1
オナガ					○		1
ホシガラス				○			1
ハシボソガラス	○				○		2
ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	6
キクイタダキ				○			1
コガラ				○			1
ヤマガラ		○	○				2
ヒガラ			○	○			2
シジュウカラ	○	○	○		○		4
ツバメ	○	○					2
ヒヨドリ	○	○	○		○	○	5
ウグイス	○	○	○	○			4
ヤブサメ				○			1
エナガ		○		○			2
メボソムシクイ				○			1
エゾムシクイ		○					1
センダイムシクイ			○				1
メジロ	○	○	○				2
ゴジュウカラ	○	○					2
キバシリ				○			1
ミソサザイ				○			1
ムクドリ					○	○	2
コムクドリ	○	○					2
カワガラス	○						1
クロツグミ		○	○				2
シロハラ					○		1
アカハラ		○					1
ツグミ	○				○	○	3
コマドリ				○			1
コルリ			○				1
ルリビタキ				○			1
ジョウビタキ					○		1
コサメビタキ		○					1
キビタキ		○	○				2
オオルリ		○					1
スズメ	○				○	○	3
キセキレイ	○	○		○			3
ハクセキレイ	○					○	2
セグロセキレイ		○					1
ビンズイ				○			1
カワラヒワ	○	○			○	○	4

場 所	茅野市 公園	運動 茅野市 尖石・竜神池	茅野市民の森 吉田山	茅野市、佐久市、 佐久穂町 大河原峠、双子山、 双子池	茅野市 神長官守矢史料館	茅野市 上川 岡谷市諏訪湖	確 認 箇 所 計
月	4月	5月	6月	7月	12月	2015年1月	
日	13日	3日	1日	21日	21日	2日	
ベニマシコ					◎		1
ウソ				◎			1
シメ	◎				◎		2
イカル	◎	◎	◎		◎	◎	5
ホオジロ		◎	◎		◎		3
カシラダカ	◎				◎		2
ノジコ		◎	◎				2
アオジ		◎	◎				2
クロジ				◎			1
							148
確認種数	23種	36種	24種	20種	20種	26種	82種

茅野市「身近な生き物しらべ」 オオヨシキリ地域別生息箇所

茅野市八ヶ岳総合博物館市民研究員 野鳥グループ 生息箇所調査

地域名	平成 15 年	平成 26 年
上川		
広瀬橋 ～ 茅野橋	18	32
茅野橋 ～ 公園大橋	13	20
公園大橋 ～ 鬼場橋	4	20
鬼場橋 ～ 中大塩新橋	9	16
中大塩新橋 ～ 滝の湯・渋川合流	6	4
流域小計	50	92
渋川		
滝の湯川合流 ～ 糸萱大橋	9	6
	9	6
滝の湯川 ・ 音無川		
渋川合流 ～ 滝の湯川	0	1
蓼科湖	7	9
滝の湯川合流 ～ 音無川	3	1
第二白樺湖	1	3
白樺湖	4	13
流域小計	15	27
宮川 ・ 取鱒川		
諏訪市堺 ～ 西茅野入口	3	6
西茅野入口 ～ 富士見町境	1	5
取鱒川	0	4
流域小計	4	15
柳川		
上川合流 ～ 小泉大橋	1	9
小泉大橋 ～ 泉野上槻木	22	13
流域小計	23	22
茅野横河川		
上川合流 ～ 上流	0	1
流域小計	0	1
その他		
玉川 中沢集落内	0	1
豊平 竜神池	0	1
玉川 農場下	4	0
泉野 グリーンヒルズ上	1	0
流域小計	5	2
年度合計	106	164

- ・タカの渡り観察では、サシバ 8羽 ノスリ 2羽の 10羽が確認できました 頭上で旋回上昇して入笠山、守屋山方面を目指して飛翔する固体が見られました。少ないながらも佐久側から八ヶ岳を超え南下するルートが解りました。
- ・麦草峠より茶臼山往復では、ホシガラス、メボソムシクイ、ルリビタキ、ヒガラがいました。渡りのタカを加え 6種 20個体が確認できました。

◎ オオヨシキリの生息調査を市内全域で行いました。

平成 15 年茅野市環境にやさしいまちを創る市民の会により「身近な生きもの調べ」より 10 年が経過しました。八ヶ岳物総合博物館の市民研究員調査活動の一つとしてオオヨシキリの生息調査を行い、10 年後の変化を確認しました。

調査は前回と同様に、繁殖時期の後期にさえずっているオスのオオヨシキリを一つの縄張りとしての場所、数の調査を市内各河川、湖沼、水田地帯などを回り実施しました。

（前回の場所決定に使用したメッシュ地図が、今のメッシュ地図とずれが見えたので、今回の記録は経緯で記録し、まとめは河川・地域名等で行いました

添付別表 「オオヨシキリ地域別生息箇所調査表」

感覚でない実数のデータが調査により作成できたので、今後の調査で比較検討が出来て行けます、さらに場所などを替え実績が蓄積される事が一つの目標点です。

グループ参加者

伊藤 美穂子 牛山 志穂 牛山 好友 大塚 敏子
小林 喜久一 小林 美里 松澤 勝成

実験工作グループ活動報告

木村正弘*****

1 今年度の活動

活動2年目、前年に引き続き「身近な素材を活かした子どもたちにとって興味深い実験と物づくり」をテーマにして活動を展開した。理論と実践に強い市民研究員を育成するため、活動内容は理論的に学びながら新たな実験工作のメニューを開発する研究会と、開発したメニューを講座に参加した子供たちに実際に指導する実践的なものにした。研究会は原則として毎月1回諏訪東京理科大の研究室で開催した。実践的活動は昨年度に引き続き総合博物館の主催事業である、毎月1回開催している子ども実験工作クラブの指導と、夏休み子ども教室での実験工作の指導を行った。指導には主担当者を2名決め、他の市民研究員がサポートする形態を採用した。今年度は昨年度の内容に加えて、茅野市が主催する市民館でのサイエンスフェスタに実験工作グループとして参加した。このような活動を通して市民研究員の研究心が高まり、実践的指導力が大いに向上してきている。

2 活動の記録

(1) 研究会

年間12回、原則毎月第2水曜日の18:00～20:00に理科大研究室で開催した。ここでは主に新たな実験工作メニューの研究開発と、次回指導する講座の準備と打ち合わせを行った。その他にサイエンスフェスタ出展準備のため、博物館研究室で出展物製作作業等を行った。定期講座での参加者は毎回平均23名で延348名、サイエンスフェスタでは1300人を超える市民の参加があった。

(2) 講座指導

以下記載の指導を行った。

- 5月17日(土) 子ども実験工作クラブ指導 ライトプレーンを作って飛ばす
- 6月21日(土) 子ども実験工作クラブ指導 紙を飛ばす 変わった形の紙飛行機
- 7月19日(土) 子ども実験工作クラブ指導 ポンポン船を作って水に浮かべて走らせる
- 8月7日(木) 夏休み子ども教室指導 変わった万華鏡製作
- 8月8日(金) 夏休み子ども教室 ゴムワンカーを作ってカーレース
- 9月14日(日) サイエンスフェスタ出展 ガウス加速器、ガウス鉄砲、リングキャッチャー
- 9月27日(土) 子ども実験工作クラブ指導 水力発電機を作って発電する
- 10月18日(土) 子ども実験工作クラブ指導 簡単なモーター製作2点
- 11月8日(土) 子ども実験工作クラブ指導 変わった万華鏡製作
- 12月20日(土) 子ども実験工作クラブ指導 ゴムワンカーを作ってカーレース
- 1月17日(土) 子ども実験工作クラブ指導 メビウスの輪、リングキャッチャー
- 3月22日(日) 活動発表イベントデー ガウス加速器、ガウス鉄砲

3 実験工作グループ参加者 7名

根橋 良紀 吉江 俊彦 両角 健 両角 美恵子 三井田 陸郎
山田 勝俊 小泉 正幸

2014年度の事業結果

1 企画展・特別展

- (1) 八ヶ岳山麓のこて絵 4/12～6/15 観覧者数 2,552人
芦田吉美氏が精力的に撮影した諏訪地方の蔵の「こて絵」の写真を約80点と実物5点展示
- (2) 北八ヶ岳のコケ 7/26～9/28 観覧者数 2,505人
コケ（蘚苔類）とは何か、八ヶ岳山麓のコケを写真で紹介
- (3) 九頭井太夫家文書の世界 8/9～10/13 観覧者数 2,288人
九頭井太夫家から寄贈された古文書等の貴重な資料を展示
- (4) 研究創意工夫展 11/1～11/30 観覧者数 1,319人
市内小中学生の自由研究、工作、絵画の展示会
- (5) 博物館活動発表展 2/28～3/22 観覧者数 695人
博物館で活動している市民グループの活動報告展

<ワークショップ>

- (1) 5月31日（土）八ヶ岳山麓のこて絵 講師 矢沢将利 下平 悟 参加者20名
20cm四方のこて絵を漆喰を使って実際に描く
- (2) 8月17日（日）北八ヶ岳のコケ 講師 茨城県自然博物館 鷗沢美穂子 参加者20名
コケのテラリウム作り

<ギャラリートーク>企画展の展示解説

- (1) 8月16日（土）九頭井太夫家文書の世界 講師 柳川英司 参加者12名
- (2) 9月27日（土）九頭井太夫家文書の世界 講師 柳川英司 参加者2名

2 講演会

- (1) 4月26日（日）「市民参加 平塚市博物館の例」 講師 平塚市博物館長 澤村泰彦
参加者24名 平塚市博物館館長 長澤村氏より平塚市博物館の市民参加の具体例を紹介
- (2) 5月25日（日）「つなぐ（ものをつなぐ 人をつなぐ）」 講師 岡野勇二
参加者17名 学習し蓄えた力を発揮するには、どのように伝えればよいかについて
- (3) 8月3日（日）「コケの世界」 講師 国立科学博物館 樋口正信
参加者42名 コケ植物の体のつくり、生活史を北八ヶ岳のコケで
- (4) 9月28日（日）「仮面の女神の見た星空」 講師 館職員 若宮崇令
参加者25名 5000年前歳差運動により南十字星が茅野で見えた
- (5) 10月4日（土）「江戸時代の農村文書」 講師 東京外国後大学教授 吉田ゆり子
参加者25名 古文書からわかる社会の仕組みと庶民の暮らし
- (6) 10月5日（日）「諏訪湖の生態系」 講師 信州大学 君島 祥
参加者13名 諏訪湖のミジンコから見える自然の仕組み
- (7) 10月26日（日）「野鳥学習会」 講師 日本野鳥の会 両角英晴
参加者4名 展示ジオラマ、収蔵剥製を見ながら野鳥の学習
- (8) 11月22日（土）「植物の形態について」 講師 諏訪教育会 岩波 均

- 参加者 17 名 植物の体、花、果実のつくりについて
- (9) 12月6日(土) 「植物の生態について」 講師 植物研究家 名取 陽
参加者 13 名 熱帯アジア、アフリカの植物生態系と八ヶ岳の比較
- (10) 2月14日(土) 「八ヶ岳の植物相」 講師 諏訪教育会 白鳥保美
参加者 24 名 今までの調査結果からみた八ヶ岳山麓の植物について
- (11) 3月29日(日) 幻の流星群を追う 講師 かわさき宙と緑の科学館 佐藤幹哉
参加者 16 名 ダストチューブ理論で計算する流星群の出現予測

3 自然観察会

- (1) 4月13日(日) 探鳥会(運動公園) 講師 日本野鳥の会 両角英晴 参加者 9 名
- (2) 5月3日(土) 探鳥会(竜神池周辺) 講師 日本野鳥の会 両角英晴 参加者 14 名
- (3) 5月10日(日) スミレ観察 講師 諏訪教育会 武居三男 参加者 24 名
- (4) 7月19日(土) 霧ヶ峰の自然観察 諏訪教育会 参加者 60 名
- (5) 7月26日(日) 霧ヶ峰の自然観察 諏訪教育会 岩波 均 参加者 4 名
- (6) 8月1日(金) ツバメのねぐら観察 講師 日本野鳥の会 両角英晴 参加者 2 名
- (7) 8月10日(日) コケの観察会 講師 北八ヶ岳コケの会 台風 11 号接近で中止
- (8) 8月24日(日) キノコ観察会 講師 菌類懇話会 小山明人 参加者 16 名
- (9) 9月23日(火・祝) タカの渡り観察会 講師 日本野鳥の会 両角英晴 参加者 7 名
- (10) 9月23日(火・祝) コケの観察会 講師 北八ヶ岳コケの会 参加者 12 名
- (11) 10月12日(日) キノコ同定会 講師 菌類懇話会 小山明人 参加者 10 名
- (12) 12月21日(日) 探鳥会(守矢史料館周辺) 講師 日本野鳥の会 両角英晴 参加者 3 名
- (13) 2月1日(日) 探鳥会(上川・諏訪湖周辺) 講師 日本野鳥の会 両角英晴 参加者 2 名

4 星空観察会 年間 24 回計画(毎月 2 回土曜の宵)

晴天で実施できたのは 13 回 参加者 延 76 名

5 歴史観察会

- (1) 6月14日(土) こて絵見学会 講師 朝倉 清 参加者 9 名
- (2) 10月5日(日) 上原を歩く 講師 館職員 柳川英司 台風 18 号接近中止

6 古文書関係事業

- (1) 古文書解説講座 全 8 回 講師 館職員 柳川英司 参加者 延 140 名
- (2) 古文書研究会 全 12 回 講師 館職員 柳川英司 参加者 延 101 名
- (3) 古文書相談会 年間 10 回 講師 館職員 柳川英司 参加者 延 12 名

7 裂き織でランチョンマット

毎月第 2 土・日の午前午後 48 回、9 月と 3 月の平日 4 回計画 講師 ねじばなの会
参加者 延 203 名

8 講座

(1) 夏休み子ども教室

- ① 8月3日(日) 星空教室 講師 館職員 若宮崇令 参加者9名
- ② 8月5日(火) ネイチャークラフト 講師 小山京子 参加者13名
- ③ 8月6日(水) 糸電話で自由研究 講師 館職員 若宮崇令 参加者9名
- ④ 8月7日(木) 変わった万華鏡を作ろう 講師 市民研究員実験工作G 参加者28名
- ⑤ 8月8日(金) ゴムワンカーレース 講師 市民研究員実験工作G 参加者33名
- ⑥ 8月9日(土) 裂き織りでランチョンマット 講師 ねじ花の会 参加者8名
- ⑦ 8月10日(日) 裂き織りでランチョンマット 講師 ねじ花の会 参加者10名

(2) 月食関連

- ① 10月4日(土) 皆既月食の観察の仕方講習会 講師 館職員 若宮崇令 参加者13名
- ② 10月8日(水) 皆既月食の観察 講師 館職員 若宮崇令 参加者30名

(3) ロビー体験

- ① 12月13日(土) しめ飾り作り 講師 平沢 治 参加者10名

(4) 子ども科学クラブ 全13回 年度初めに募集した25名が1年間継続学習

<内容>開講式、講演 星の世界、野鳥観察、水生昆虫学習Ⅰ、水生昆虫学習Ⅱ、植物観察、地層観察Ⅰ、キノコの世界、地層観察Ⅱ、星の世界、動物観察、電気の基礎、電気と磁石、野鳥観察、閉講式

<講師>野沢進之輔、茅野靖男、小松正夫、浜 篤、小池春夫、小山明人、橘田利幸、若宮崇令
参加者 延347名

(5) 子ども実験工作クラブ 全12回 年度初めに募集した25名が1年間継続学習

<内容>ゴム動力1、紙工作1、動く船、わくわくどきどき科学実験、発電機、モーター工作、万華鏡工作、模型工作2、紙工作2、リングキャッチ、飛行機はなぜ飛ぶか、ロケット作りと発射

<講師>木村正弘・市民研究員実験工作G、両角紀子・東海大3高科学部、河村 洋
参加者 延286名

9 市民研究員の活動

今年度は以下の活動を通して9名、市民研究員に認定した。

(1) 植物グループ 指導者 名取 陽、岩波 均、白鳥保美、武居三男

活動内容 八ヶ岳山麓の植物相について学習 参加者 延108名

(2) 陸水グループ 指導者 花里孝幸、君島 祥

活動内容 水田のミジンコ調査から水田の水中の生態を明らかにする 参加者 延25名

(3) 野鳥グループ 指導者 両角英晴

活動内容 野鳥観察会、ポイントセンサス調査、ラインセンサス調査で野鳥についての学習と消長を調べた。 参加者 延7名

(4) 菌類グループ 指導者 小山明人

活動内容 野外での観察調査学習と室内での学習を通してキノコ相を調べながら学習を深めた。 参加者 延123名

(5) 実験工作グループ 指導者 木村正弘

活動内容 毎月1回の研究学習会と博物館が主催する実験工作に関する事業の指導者をつとめながら理論と実践に強い実験名人を目指した。 参加者 延 144 名

10 出張事業

項目	月日	出張先	内容	出張者
講師	7月23日	泉野小学校	星の話と土星観望	若宮 25
講師	7月26日	諏訪東京理科大	星の話と土星観望(夢合宿)	若宮 86
星空観察	9月2日	永明小学校	星の話と星座、月面観望	若宮 105
講師	8月31日	市民館周辺	M活性化ワークショップ	柳川 10
講師	9月17日	前宮本宮周辺	史跡観察学習会(森林文化の会)	柳川 11
講師	11月16日	守矢史料館→高部→上社	上社、諏訪神社関係史跡、遺跡および古墳の見学案内	柳川 11
星空観察	11月26日	金沢小学校	星の話と星座、月面、二重星等	若宮 28
星空観察	11月28日	北部中学校	星の話と双眼鏡、天体望遠鏡を使った月面観察	若宮、小林 23(両角)
講師	1月31日	今井書店特設会場	ふるさと文化を語り継ぐ会「茅野市文化財の現状と課題」	柳川 70

11 収蔵庫お披露目会

6月7日(土)、8日(日)に公開した。 見学者 70 名

12 その他

(1) 11月6日(木) 草の根交流ねじばな研修会

ねじばなと日本民家園民技会とのボランティア交流 参加者 18 名

(2) 5月22日(木)、23日(金) 北部中学校体験学習性受け入れ 2名

(3) 9月2日(火)～9日(火) 博物館学芸員実習生受け入れ 2名

帝京大学 小山夏美、浅沼睦志

(4) ミュージアム活性化事業に協力

7月31日(木) ワークショップ、10月25日(土) ミュージアムピクニック、

11月13日(木) ミュージアムコンシェルジュ講座

寄贈・寄託資料

寄贈・寄託年月日	受入種別	寄贈・寄託者	寄贈・寄託品名	数量
平成26年4月22日	寄贈	竹村靖夫	雛人形 等	32
平成26年5月17日	寄贈	検校庵 鈴木恵道	こて絵	1
平成26年6月20日	寄贈	風間 進	五月人形 等	7
平成27年1月28日	寄贈	神澤みどり	キジ・ヤマドリ剥製	各1
平成27年1月22日	寄贈	加納 清	スケート研ぎ・木桶	各1
平成27年3月20日	寄贈	ヒムロ社 丸茂伊一	土屋文明著『万葉集私注』筑摩書房刊 斎藤茂吉著『斎藤茂吉全集』岩波書店刊	10 30



5月31日 矢沢将利氏・下平悟氏「こて絵ワークショップ」



8月17日 鶴沢美穂子氏「コケテラリウム作り」



4月26日 澤村泰彦氏「市民参加平塚市博物館の例」



5月25日 岡野勇二氏「つなぐ（ものをつなぐ 人をつなぐ）」



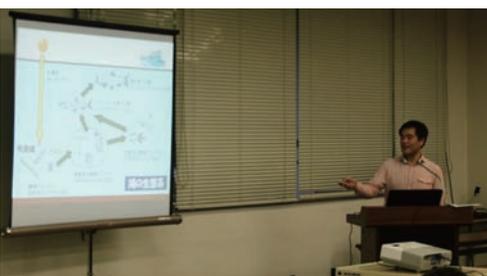
8月3日 樋口正信氏「コケの世界」



9月28日 若宮崇令氏「仮面の女神の見た星空」



10月4日 吉田ゆり子氏「江戸時代の農村文書」



10月5日 君島祥氏「諏訪湖の生態系」



10月26日 両角英晴氏「野鳥学習会」



11月22日 岩波均氏「植物の形態について」



12月6日 名取陽氏「植物の生態について」



2月14日 白鳥保美「八ヶ岳の植物相」



3月29日 佐藤幹哉「幻の流星群を追う」



4月13日 探鳥会



自然観察会 7月19日 霧ヶ峰の自然観察会



自然観察会 8月10日 コケの観察会



自然観察会 10月12日 キノコ同定会



星空観察会



6月14日 朝倉清氏「こて絵見学会」



古文書解読講座



夏休み子供教室 8月6日 糸電話で自由研究



夏休み子供教室 8月8日 ゴムワーカーレース



12月13日 しこども科学クラブ ゴムワーカーレース



9月 地層観察Ⅰ



こども科学クラブ 11月1日 地層観察Ⅱ



こども実検工作クラブ 5月17日 紙飛行機



こども実検工作クラブ 7月19日 ポンポン船



11月22日 研究創意工夫展授賞式



収蔵庫お披露目

26年度 茅野ミヤマシロチョウの会 活動記録

茅野ミヤマシロチョウの会 福田勝男・宮下りよ

はじめに

26年度の活動は、会発足から7年が終わる人生で行けば七転び八起と言われる節目の年にある。

この節目我々の活動にも値するのか、ミヤマシロチョウにとって今年度は最大の危惧が考えられる状況を迎え、八年度にどう転ぶか・起き上れるのか全く分からない状況に陥ってきた。

この現象は会発足2回目の危機であるが、1回目は近隣の生息地からと思われる個体飛翔があり切り抜けられたが、今回は少し事情が違う。当方は27年度の越冬幼虫巣1個に対し、近隣の越冬巣は2個、個数では1対2であるが、平成23年度の越冬巣について当方は0（越冬巣6に対し越冬後は幼虫全て死滅）に対し、近隣の巣数が260を数えていた。それがここ約3年間で急速に幼虫巣が減少している現状から、27年度には八ヶ岳のミヤマシロチョウの生息に期待がもてない可能性も考えられる。

ということは八ヶ岳で新種として発見されたのが明治34年、すなわち120年にして絶滅の危機に立たされている。なんとか生き残ってくれることだけを祈るだけである。

紀要の後半に今年度の原因・並びに今後の対策など考えられることを記述しているが、全て正しいかは別にして感じたことを述べている。

それらを踏まえて、ここに26年度の当会の活動を報告します。監視活動後に考えられる減少に対する原因と、今後の対策が記述してあるが考えられる原因と対策であり、明確な答えは不明である。

今年度の活動は、生物多様性を考慮した事業も多少多くなり、充実した活動ができたと思っている。

1. 事業活動

イ.26年度総会 4月13日 来賓：柳平茅野市長・吉田教育委員長・牛山教育長
事務局：守矢尖石博物館長・小林文化財係長・若宮八ヶ岳総合博物館長・小林八ヶ岳総合博物館係長
会員：28人

ロ.26年度事業反省会 12月13日 会員参加者：21人
調べの学習コンクール こども自然探検隊会員 受賞発表
宮坂君 茅野市長賞受賞（出展数1,278点の最高賞）
後に日本図書館振興財団優良賞受賞（全国57,070点の115点以内）
観察会：国蝶「オオムラサキ」センター＋深沢溪谷
保護監視：吸蜜植物植え込み ノアザミ・ウツボグサ・ヨツバヒヨドリなど開花状態のもの
越冬巣幼虫天敵防止ネット張り と監視
保全整備：27年度ヘビノボラズ除伐
こども自然探検隊：外来生物整備 本会応援
企画：活動報告書・レッドデータブック原稿と検討
展示・講演などの参加を含めた活動

2. 事業活動報告

イ. 学習会

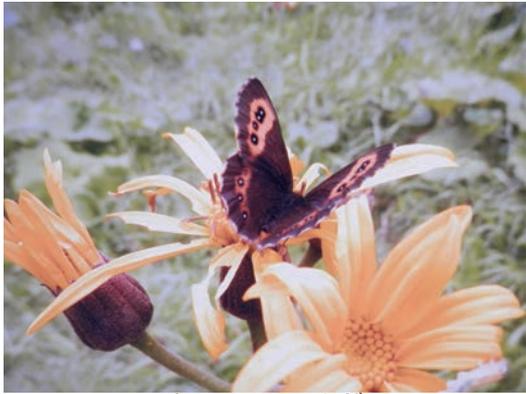
- 教育学習 4月20日 チョウの生態・会の活動・生物多様性 参加者：4人
観察会 5月11日 ヒメギフチョウの観察 参加者：12人
交尾観察できたよ
8月24日 ベニヒカゲ・クモマベニヒカゲの観察 参加者：3人



観察風景



交尾



クモマベニヒカゲ



ベニヒカゲ

- 調査 9月21日 ミヤマシロチョウの越冬巣調査 参加者：7人
立場1巣のみ。ちなみに広河原2巣

写真 2 / 18 - 1 P 1

④

越冬巣調査

越冬巣の状況

- 11月8日 第2回ミヤマシロチョウの越冬巣
調査 参加者：10人



越冬巣調査

ロ. 保護監視活動

保護 4月8日 越冬幼虫天敵防止

ネット架け申請

5月11日 同上実施 参加者：12人

6月29日 成虫吸蜜植物ノアザミ植栽

監視活動中



ネット架け状況

月日	監視者	立ち入り者	備考
5月13日	福田・松影・斉藤		ヒメギフ多い
5月15日	平林・小山・吉江		立場川増水横断部待機するも撤退
5月17日	松影・矢崎	散策者2人・登山者3人、帰路散策者4人内ヒメギフ採集者1人	
5月20日	松影・仙石		
5月22日	浜・吉江・福田・三浦		
5月25日	松影・馬場		ネット内幼虫糞確認
5月27日	松影・両角・藤森		ネット内幼虫1確認
5月29日	福田・浜・矢崎・吉江	山菜採り2人	
5月31日	松影		
6月1日	福田・藤森	自然観察者4人・チョウ採集者(ヒメギフ)1	
6月3日	緑川(統・千)・福田		巣大きくなってきたが食痕少ない
6月5日	悪天候 中止		
6月7日	同上		
6月8日	福田・浜・矢崎・北沢・吉江・馬場		保全作業と並行 天敵防止ネット2追加
6月10日	福田・さいとう・矢崎・北沢・藤森		保全作業片づけ並行
6月12日	三浦・平林・福田		幼虫確認 234-4頭 239-1頭 2009-2 2頭 前蛹見られる
6月14日	松影・馬場		幼虫10頭程度 登山者2人
6月15日	福田・浜・小山		幼虫・サナギ確認 234-6頭(さ-1頭) 2009-2 2頭 237-4頭 239-1頭 八ヶ岳自然学校観察会 9人
6月17日	福田・両角		4ネット 幼虫11頭・さなぎ2頭 確認
6月19日	浜・緑川(統・千)・福田		234-6頭(内さなぎ5頭 237-3頭 2009-2 12頭(内さなぎ5頭) 239-1頭 合計22頭確認
6月20日	松影・矢崎	植物写真1人・登山者1人	
6月21日	西原・小平		
6月22日	悪天候 中止		
6月23日	福田・両角・吉江		幼虫7頭・さなぎ13頭 確認
6月24日	小林・両角		さなぎ15頭確認
6月25日	松影・西原		
6月26日	浜・矢崎・小山		幼虫・さなぎ確認 234 さなぎ6頭 2009-2 さなぎ10頭 237 さなぎ4頭 239 幼虫1頭
6月27日	平林・吉江・小林		さなぎ 17頭 幼虫未確認
6月28日	西原・高橋・藤森		
6月29日	福田・小平・馬場・北沢		さなぎ確認早朝の降雨により10頭程度観察 吸蜜植物ノアザミ植栽 花付き3株
6月30日	緑川(統・千)・両角		さなぎに羽の紋様が確認できる個体有

5・6月の中間まとめ

個体調査の結果最大22頭から推測すると30頭以上期待できる

監視者延べ人員 81人(ネット架け除く)

活動中の入山者 登山者 10人 自然観察者 13人 山菜採り 2人 蝶採集者 1人
 散策者 2人 写真撮影者 1人
 合計 29人

7月以降の監視活動

月 日	監視者	立ち入り者	備 考
7月1日	松影・矢崎・小林		
7月2日	福田・西原 5日にネット外し?		
7月3日	小林・吉江		さなぎ確認 2009-2 6頭 234 6頭 237 4頭 239 1頭 合計 17頭
7月4日	松影・小林		天候悪化のため途中で中止
7月5日	福田・西原・馬場 *ネット外し実施		さなぎの確 234 ネット4・枝15・落下1 20頭 2009-2 ネット7・枝15 22頭 237 ネット3・枝2 5頭 239 枝1 1頭 合計 48頭を確認したが、ネット付着さなぎの中に天敵に犯されたと思われる変色個体が6頭観察された
7月6日	小林・斉藤・藤森	登山者 2人	
7月7日	降雨のため中止		
7月8日	福田・浜・両角・小林		今日も羽化しない 6月の天候不順の影響か?
7月9日	緑川(統・千)・西原		羽化前兆期待すれど羽化失敗の可能性ある個体が
7月10日	福田・吉江		台風8号接近のためネット移動する 待望の羽化個体2頭確認するが吸蜜植物バイカウツギがやっと開花
7月11日	松影・小山	登山者 1人	羽化 0 最大成虫観察 2頭
7月12日	三浦・小平・馬場・小林		羽化 4 (内1不完全・落下個体? 累計6頭 最大成虫観察 5頭)
7月13日	高橋(政・京)	チョウ類保全協会 会員 1人	羽化 1 累計7頭 最大成虫観察 9頭 観察会 八ヶ岳自然学校 10人 こども自然探検隊 8人 会員3人
7月14日	松影・西原	釣り人 4人	羽化 3 累計10頭 最大成虫観察 7頭
7月15日	福田・仙石・坂間親子	ミヤマシロチョウ 写真撮影者 1人	羽化 5 累計15頭 最大成虫観察 7頭
7月16日	斉藤・西原		羽化 2 累計17頭 最大成虫確認 6頭
7月17日	福田・吉江	観察者 1人(清 陵高生物部 OB)	羽化 3 (内不完全個体1含む) 最大成虫確認 10頭 交尾1P 確認
7月18日	平林・小林		最大成虫確認 10頭 ♀多い
7月19日	松影・西原・小平・馬場	登山者 5人 写真撮影 2人	羽化 5 累計22頭 内3頭不完全(累計7頭) 最大成虫観察 11頭 交尾1P
7月20日	福田・斉藤・藤森	チョウ類保全協会 2人 (内1人は 会員)	羽化 5 累計 27頭 (内1不完全 累計8頭) 最大成虫観察 14頭 交尾3P
7月21日	松影・大橋・三浦・吉江	当会員 3人入山	最大成虫観察 10頭 (内不完全3 累計11頭 交尾3P)
7月22日	福田・仙石・大橋・両角	登山者 1人	最大成虫観察 9頭 交尾 2P
7月23日	緑川(統・千)・平林	写真撮影 2人	最大成虫観察 7頭
7月24日	浜・両角・吉江	チョウ類保全協会 3人	羽化 4頭 累計 31頭 最大成虫観察 7頭
7月25日	斉藤・両角・小林		羽化 1頭 累計32頭 最大成虫観察 10頭 交尾拒否 1P
7月26日	仙石・高橋・土田・小野		最大成虫観察 6頭
7月27日	福田・斉藤・小澤・小平・北沢・篠原	登山者 1人(下 山)	最大成虫観察 4頭 産卵確認 1ヶ所 (No.227)
7月28日	松影・緑川(統・千)	沢のぼり 1人	最大成虫観察 2頭
7月29日	福田・藤森	キノコ調査 1人	最大成虫観察 1頭
7月30日	松影・西原	山歩き散策 1人	最大成虫観察 確認できず
7月31日	福田・浜・吉江		最大成虫観察 1頭



幼虫天敵防止ネット外し

*以上7月末日をもって、

監視活動を終了とする

生態観察 7月のまとめ

監視者延べ人員 85人

成虫羽化総数 32頭 内不完全個体 11頭

成虫羽化確認日 7月10日 2頭

交尾観察 10P 初日 7月17日

交尾拒否 初日 7月25日

産卵初観察 7月27日

最大成虫観察個体数 14頭 7月20日

入山者 累計 53人

内訳 登山者 11人 写真撮影 4人 キノコ 1人

自然観察 31人 (内6人 チョウ類保全協会員) 散策 2人 釣り 4人

*今季の特徴 自然観察 市内自然学校対応 10人 チョウ類保全協会員 6人

*ネット架けからの監視活動集計

延べ監視者数 166人

登山者 21人 写真撮影 7人 釣り 4人 散策 3人 自然観察 44人

山菜採り 2人 キノコ 1人

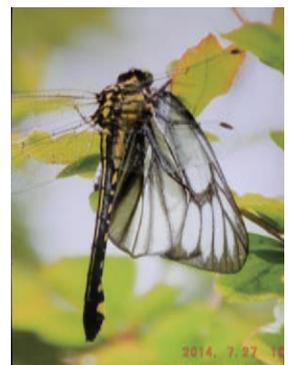
総計 82人の入山者数

監視活動中に観察された天敵

成虫の天敵「ミヤマサナエ」

7月27日に北沢監視員が見つかり撮影された。成虫の天敵で記憶にあるのは、3年ほど前にクサゲモに捕獲されたミヤマシロチョウを観察したが、この時は前日と同じところに静止していたので、変に思い見たところクサゲモが。写真撮影を他人に依頼したところ焦点がミヤマシロチョウに合わせられクサゲモの姿はぼけて確認できなかったのを思い出す。

今回のミヤマサナエは撮影した本人曰く、あわてたために羽が寸断された写真になったとのこと。仕方ないよね。



ミヤマサナエに捕食されるミヤマシロチョウ

さなぎの天敵か? 「シリアゲ」

幼虫天敵防止のネットを外した後にさなぎに吸汁するシリアゲを観察した。ただし、このさなぎは変色しているので、実情については不明である。



さなぎに「シリアゲ」が吸汁

監視活動の結果からの考察「まとめ」

a. さなぎ個体数から成虫羽化個体数との羽化率

7月5日に確認されたさなぎ48個体について、変色など原因不明であるが不完全さなぎ6個体があり、健全個体と思われる42個体について羽化率を算出してみた。

羽化は7月10日（平年は7日頃）と今年は2から4日遅れであった。羽化終了は25日であり、途中に於いて1頭さなぎからの羽化途中で死にいたった個体が観察された。

羽化確認数 $32 \div 41$ （不完全6 + 途中死1） = 78.0%

不完全個体数11頭を換算すると $(32 - 11) \div 41 = 51.2\%$ であった。

b. 羽化発達障害に対する考えられる原因

既に紀要に掲載済みであるが、平成23年の幼虫が越冬後の24年に立場川旭小屋周辺では、6巣全て死滅が観察され幼虫天敵防止ネット架けを休止した経緯がある。この23年の成虫吸蜜植物であるミヤマイボタが、他の昆虫幼虫の影響と思われる花の開花に、壊滅的な影響があった。故に成虫の弱体化により、厳冬の越冬ができなかったと考えられる。故に24年度の監視は、未観察の巣からの羽化も考慮し、成虫羽化が考えられる7月10日からスタートした。

しかし、7月後半24日まで全く姿の観察はされなかった。すなわちこの地点で旭小屋でのミヤマシロチョウは、絶滅したと考えられる。後に25日に月末にかけ5頭が観察され、2個の幼虫巣が観察された。この成虫について近隣の広河原からの飛来と推測できる。その後25年の越冬後の2巣に対し、ネット架けを実施し6巣の幼虫巣が確認されて26年度のネット架けから成虫羽化の監視活動が行われた。問題になる発達不良の個体は、25年以前は観察されなかった。



羽化発達障害 2態

c. 考えられる原因

・成虫吸蜜植物の生育不足

26年度の吸蜜植物に開花情報

吸蜜植物の不足から強健な幼虫が観られず、サナギから羽化しても体をささえる脚力が不足し枝から落下し、体液を翅脈に送ることができなかった。

今年度の吸蜜植物の開花状況は

バイカウツギ： 平年と比べ7分咲

ミヤマイボタ： 4～5分咲

クサフジ： 2～3分咲

イケマ： 成虫発生時皆目見られず

ノアザミ : 開花苗を3株植栽したが満身に咲いた花は3~4輪

以上の状態を踏まえて、当会の反省会において27年度は開花苗の植栽にノアザミ・ヨツバヒヨドリ・ウツボグサについて、八ヶ岳鉢巻道路より標高の高い場所に自生生育する個体を充てることにする。

・生息環境の局地化が原因

八ヶ岳では昭和のバブル時代より別荘・レジャー施設の開発行為
天然林が人工林のカラマツ林となり、林内の管理縮小

以上生物多様性3+1の2項に大きな原因があり、幼虫食樹であるヒロハヘビノボラズが伐採され、又チョウの飛翔空間を縮小され、局地化が進行し現在ではチョウの生育環境が、極めて局地化したと言わざるを得ない。

この2点から考えられる原因は、当会管理地と近隣生息地が尾根越しと生息地が接近している為に、同じ遺伝子を持っていると考えれば、「血統障害」が表れてきたのではないかと考え、絶滅を危惧しています。という理由として24年度の当会の越冬幼虫死滅後の産卵2巣の母蝶が同じであると考えられる故である。

上記のイ・ロから言えることは、生物多様性の対応が遅すぎたと思われるとともに、+1の地球温暖化の問題も注視しなければならない。

この項は後記の「e. 生息地の課題」に記述する

d. 考えられる今後の対策は、あるのか

八ヶ岳の今後について考えられる対策は、あるにはあるが・・・。

- ・吸蜜植物の拡充 移入種の持ち込みは行わないのが原則
- ・他の生息地から母蝶または越冬巣を移入する。
- ・八ヶ岳に27年度成虫が飛翔すれば、他の生息地の母蝶と交尾させ雑種を生育させる。

などが考えられるが、生息地の環境に大きな課題がある。

e. 生息環境の課題

当会も隣接地の生息環境は多少違いがあるが、「生物多様性」の+1の危機にあたる地球温暖化現象にある。

当会の旭小屋周辺の生息地標高は、平成20年度に幼虫産卵が1720~30mに見られたが、26年度については標高1760~65付近に産卵されている。すなわち7年間に35~40m上昇している。ということは、1年で約5m強上昇していることになる。そして亜高山帯特有の針葉樹林帯は1775mと残すところ約10mということは2年?である。すなわちその後は生息環境の頭打ちで生息環境自体が危惧されることになる。

そこには幼虫の食樹無し・成虫の吸蜜する植物なしである。今後どの様に対応して行けばよいのか、頭の痛い問題である。当会としては、ミヤマシロチョウのみに固辞せず、自然環境保護保全団体故に、近くに絶滅危惧種の生物も踏まえて「やるだけ・やるかしかないのか」と思う。またそれ以上についてはわからないが、27年度以降の状態をみてからでもいいかなと思っているが、こればかりは自然界の摂理といえども、発見されてから120年生きて・生かして残していきたいですね。

ハ. 保全整備活動

- 4月26日 旭小屋周辺植生調査 参加者：9人 A～C地区の接続区域 500㎡
- 5月8日 国定公園内除伐申請
- 6月8日 除伐活動実施 参加者6人
- 10日 監視活動並行で片づけ 参加者5人



徐伐作業状況

ニ. こども育成活動 「こども自然探検隊」

月 日	事 業	参加者		
		家族・こども	会 員	合 計
4月12日	活動説明会及び年度事業計画検討	5家族・こども4人	福田・宮下・須坂	12人
4月19日	ジャガイモ植え付け	3家族・こども6人	福田・須坂	11人
5月17日	多留姫神社「田植え」	6家族・こども8人	福田・宮下	16人
5月24日	山菜採りと山菜料理賞味	4家族・こども6人	福田・緑川・宮下・須坂	14人
5月31日	多留姫神社「稲虫追い」・サツマイモ苗植え付け	6家族・こども8人	福田・吉江・須坂	
6月14日	特定外来生物「オオキンケイギク」撲滅	6家族・こども9人	福田・宮下・両角・吉江・小平	20人
*宮坂君 調べの学習 茅野市長賞 授賞 全国図書館振興財団 優良賞 受賞				
6月28日	水生生物を探そう・セミの抜け殻も		福田・宮下・須坂	21人
7月13日	ミヤマシロチョウの成虫観察	4家族・こども5	福田・浜・宮下	12人
8月3日	外来生物ザリガニ釣りとはジャガイモ収穫	7家族・こども9人	会員 福田・宮下・須坂	19人
8月17日	原村自然文化園 自然観察	2家族・こども2人	福田・宮下・須坂	7人
9月28日	多留姫神社「稲刈り」	7家族・こども8人	福田・宮下	19人
10月5日	キノコ採り	台風8号 雨で中止		
10月11日	多留姫神社「脱穀」	4家族・こども5人	福田・宮下	11人
10月18日	サツマイモ掘りと焼き芋	9家族・こども14人	福田・須坂	25人
11月1日	紅葉と木の実観察	降雨中止		
11月14日	宮坂君 市長賞授与式 出展数1,278点中最高賞			
11月15日	多留姫神社「餅つき」と餅賞味	6家族・こども8人	福田・宮下	17人
12月7日	ネイチャークラフト「リースづくり」	7家族・こども10人	福田・宮下・須坂	20人
1月17日	冬鳥観察「諏訪湖」	3家族・こども5人	福田・宮下・須坂	12人
2月1日	霧ヶ峰スノーシュートレッキングと動物の足跡	3家族・こども5人	福田・宮下・須坂	11人

ホ. 生物多様性「希少野生動植物・絶滅危惧種」の保護

愛知目標 12 項該当

a. ホテイラン調査・監視

調査月日	調査・監視場所	参加者
5月26日	美濃戸調査	小林・福田・吉江
29日	立場沢調査・監視	福田・浜・矢崎・吉江
6月3日	美濃戸調査	小林・矢崎
7日	美濃戸調査・監視	小林・福田
13日	一之瀬セギ 土地所有者立会	小林・福田 中沢財産区議長 地元管理希望者 ともに



調査状況



写真撮影者監視

b. コケリンドウ

長野県 RDB 絶滅指定後、当会員により茅野市・富士見町に生育観察され、1A にランク落ちする。

5月11日～6月5日まで 土地所有者探索

6月10日 土地所有者と現地立ち合いし、車両の駐車禁止処置実施

後に長野県環境保全研究所と連絡 27年度に移植する計画



コケリンドウ



自生地車両駐車状況

c. トラキチラン

8月25日頃～9月10日頃まで小林・斉藤両氏が調査・監視活動実施

30日 生育地の調査・監視活動 観察会を兼ねて参加

参加者 小林・斉藤・福田・三浦・馬場



トラキチラン



写真撮影者監視活動

へ. 生物多様性「特定外来生物」の撲滅

愛知目標9項該当

a. オオキンケイギク

6月14日 こども自然探検隊事業として、昨年につづき実施
除草された跡であり、作業に悪条件であった

b. オオハンゴンソウ

6月2日 茅野市環境係りと生育地視察案内 福田対応

ト. 企画・報道活動

講演

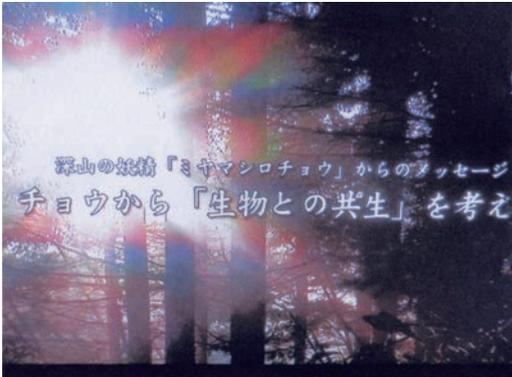
11月15日 深山の妖精ミヤマシロチョウ

チョウからのメッセージ 生物との共生を考える

風樹文庫内 風の樹会



オオキンケイギク除去作業



展示

2月15日 長野県山岳フォーラム 長野

参加者 福田・斉藤・三浦・小林・須坂

ミヤマシロチョウ・会の活動内容・生物多様性などの展示



フォーラム会場



展示

2月28日～3月22日 八ヶ岳総合博物館活動展 展示

ミヤマシロチョウ・会の活動内容他

3月16日～26日 茅野市庁舎 1Fロビー

特別展示 当会こども自然探検隊会員

「調べの学習コンクール 作品展」とこども自然探検隊活動 展

作品展内容

全国図書館振興財団 優良賞 受賞

応募数 57,070 点中 上位 115 点以内表彰

茅野市市長賞 受賞 応募数 1,278 点最上位

作品内容 特定外来生物 撲滅に関する作品

生物多様性対象項目 愛知目標 20 の 9 項

題名 取り戻せ 「茅野市の原風景 ～駆除活動から分かった植物達の真相～」

玉川小 5 年生 宮坂 悠助



作品表紙



表彰式

宮坂君 受賞おめでとうございます。当会にとって最高の榮譽と誇りを頂きました。こども自然探検隊活動を運営して良かったです。これを期に他の会員も追従してくれることを願っています。ありがとう。

あとがき

今年度の感想として、ミヤマシロチョウの来年度が非常に心配になるが、なるようにしかならないと考えざるをえない。人間活動の危機が表れたことと考える。それでも生きていてほしいですね。

二つ目のこどもの特定外来生物についての作品には、非常に感心させられました。大人がもっと考えなければなりません。

そのような中で 27 年度は、生物多様性にしっかりと足を踏み込み、茅野市の絶滅危惧種のレッドデータブック作成の準備をして、市民に活動を拡大し実行していきます。

紀 要

第 23 号

発 行 日 平成 27(2015) 年 3 月 31 日

編集発行 八ヶ岳総合博物館

〒 391-0213 長野県茅野市豊平 6983

TEL .0266-73-0300 Fax.0266-72-6119

印刷 有限会社アドウェーブ

〒 391-0301 長野県茅野市北山 6650-1

TEL . 0266-75-5572 Fax. 0266-75-5582
